平成 18 年度

川崎市立小学校
学習状況調査
報告書

川崎市教育委員会・川崎市立小学校長会

はじめに

川崎市教育委員会
教育長　　北條　秀衛

昨年10月26日の中央教育審議会答申「新しい時代の義務教育を創造する」を踏まえ、文部科学省は今年1月18日に「教育改革のための重点行動計画」を発表いたしました。その中で、「活力ある人材を育てるための教育の充実」を図るために4つの重点行動計画を定め、その筆頭に学習指導要領の見直しなどを通じて、子どもたちの学ぶ意欲や好奇心を育成していくなどの確かな学力の向上を掲げています。

本市では昨年3月に、社会の急激な変化や多様化する価値観の中で、自己実現をめざして生きる市民に対して必要な教育施策として「かわさき教育プラン」を策定し、長期的なプランの目標・方向性を明らかにしたことはすでにご承知の通りです。この中で、次代を担う子どもたちに対しては、一人一人が個性を発揮し活躍できるよう、「知（確かな学力）」「徳（豊かな人間性）」「体（健康・体力）」からなる「生きる力」を育む教育の実現をめざしています。

特に、「知（確かな学力）」について、本市では、知識や技能、それらを活用する力、学ぶことへの意欲、自分で考え判断する力、表現する力、問題を解決し、自分で道を切り開くことができる力ととらえています。各学校におかれましては、これらの力を児童生徒に育成し、定着すべく日々ご尽力いただいているところです。

小学校に学習状況調査が導入されて今年は2年目を迎えます。本市がめざす「確かな学力」が子どもたちにどの程度定着できているのかを客観的に判断するため、今年度も専門機関との検討を重ね、質の高い作問に取り組んでいただきました。この調査結果を指導方法や教育課程の検証・改善に生かし、教育の質の向上に繋がるよう、本市における学習状況調査の趣旨をご理解の上、ご活用いただきたいと思います。

終わりに、学習状況調査の運営、実施にあたってご尽力いただいた小学校学習状況調査研究会議をはじめとする小学校長会にこの場をお借りいたしまして感謝申しあげます。

学習状況調査の実施にあたって

川崎市立小学校長会
会長　　藤田　　力

「かわさき教育プラン」に基づき、全市の小学校５年生を対象に実施されることになった学習状況調査（国語・算数・学習意識調査）は、今年度で２年目を迎えることになりました。

小学校長会では、この調査が子どもたちの学習意欲を高め、「生きる力」の基盤となる「確かな学力」の育成に繋がるようにと考えてきました。

学習状況調査研究会議では、調査のねらいやあり方等の理念的なものから、実施時期や作問・結果処理の方法等の具体的なものまで、年度をまたがり再検討してまいりました。その結果、本年度は、実施日を新年度早々の５月１２日に設定いたしました。学習状況調査の結果から子どもたち一人一人の学習・生活状況をより正確に把握し、その後の指導や学校の教育課程の検証・改善に役立てるようにしていきたいと考えたからです。

実際の作問にあたっては、委員をご推薦いただいた本市小学校国語教育研究会と算数教育研究会に全面的にご協力いただきました。今回も川崎の子どもたちの学習状況を把握するための適正な問題ができましたのは、直接作問にあたられた先生方の多大なご尽力のお陰であると感じております。厚くお礼申しあげます。

各学校においては、今後さらに教育課程や指導方法の改善・充実に努めることになりますが、その際、この報告書を十分にご活用していただきたいと存じます。

最後に、ご尽力いただきました本市小学校教育研究会並びに教育委員会の皆様方に深く感謝申しあげます。

目　次

Ⅰ　調査の概要

１．調査の目的 …… 5

２．調査の内容 …… 5

３．調査の対象 …… 5

４．調査実施日及び調査対象教科・人数 …… 5

（１）調査実施日 …… 5

（２）調査対象教科・人数 …… 5

Ⅱ　調査結果の概要

１．国語 …… 6

（１）作問にあたって …… 6

（２）領域ごとの結果 …… 6

（３）出題・観点等一覧 …… 7

（４）大問ごとの分析と考察 …… 8

（５）今後の指導にあたって …… 20

２．算数 …… 22

（１）作問にあたって …… 22

（２）領域ごとの結果 …… 22

（３）出題・観点等一覧 …… 23

（４）大問ごとの分析と考察 …… 24

（５）今後の指導にあたって …… 42

３．生活や学習についてのアンケート …… 44

調査の概要 …… 44

調査結果と分析 …… 45

単純集計 …… 45

クロス集計 …… 53

資料　調査結果集計表 …… 62

Ⅲ　資料編 …… 67

国語（問題用紙・聞き取り問題原稿・解答用紙）

算数（問題用紙・解答用紙）

Ⅰ　調査の概要

１．調査の目的

全市的な規模で児童の学習状況を調査することにより、学習指導上の問題点及び改善点を明らかにする。その結果を、各学校においては、今後の学習指導法の改善や教育課程編成の工夫等、児童の基礎学力の向上に役立てる。

２．調査の内容

○国語・算数

調査の目的に基づき、学習指導要領に定める４年生までの内容のうち、ペーパーテストで調査を行うことが適当な項目について調査を実施した。

○学習意識調査（生活や学習についてのアンケート）

児童の学習や生活に対する意識等について明らかにするために、児童を対象とする意識調査を実施した。

３．調査の対象

市内全市立小学校の第５学年の児童

４．調査実施日及び調査対象教科･人数

（1）調査実施日

平成１８年５月１２日（金）

（2）調査対象教科･人数

小学校第５学年

国語	10,549 人
算数	10,551 人
生活や学習についてのアンケート	10,557 人

Ⅱ　調査結果の概要

1.　国　　語

(1)作問にあたって

①　基礎学力の向上に資するという本調査の目的に鑑み、基礎・基本の内容に限定して出題するよう努めた。

②　国語科の学習指導要領においては、目標・内容などが２学年ずつまとめて示されている。したがって本調査では主に３・４年生で指導する内容の中から出題している。

③　国語科の領域構成は「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」及び〔言語事項〕の３領域１事項からなっている。本調査の作問にあたっては、児童の学力の状況をなるべく広い範囲において把握していくために、すべての領域から出題することとした。しかしながら、ペーパーによる調査で測定することのできる学力は言語能力の中でもきわめて限られた部分に過ぎないことを踏まえ、「話すこと・聞くこと」の領域のうちの「話すこと」や言語事項のうちの書写などは、出題していない。また、「読むこと」の領域の中でも、音読にかかわる内容は出題できないなど、作問の内容もきわめて限定的なものにならざるを得ない。この調査は、あくまでも学力の一部分を測定するものであることをご理解いただきたい。

④〔言語事項〕については基本的には各領域の学習を通して指導していくこととなっている。しかしながら、本調査では学力の状況を把握しやすくするため、大問２及び大問３において、他領域とは独立した形で設問している。

(2)領域ごとの結果

領域		該当する問題番号	正答率(%)
A	話すこと・聞くこと	1 (1) (2) (3)	90.9
B	書くこと	6 (1) (2) ①②③④	74.7
C	読むこと	4 (1) (2) (3) (4) (5) 5 (1) (2) (3) (4) (5)	67.5
D	言語事項	2 (1) ①②③④ (2) ①②③④ 3 (1) ①② (2) (3)	76.9

(3)出題・観点等一覧 (次ページ)

出題・観点等一覧

問題番号				正答	観点								
No	大問	中問	小問	（選択式→番号，記述式→言葉）	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	問題の内容	領域	出題のねらい	学習指導要領	正答率(%)
1	1	(1)		1	◎				①話の内容を聞き取る	①話すこと・聞くこと	だれがどのような順番で話しているかに気をつけて聞き取ることができる。	A(1)イ	86.3
2		(2)		3	◎						話の中心に気をつけて聞くことができる。	A(1)イ	95.6
3		(3)		2	◎						話の中心に気をつけて聞き、司会の役割を理解して聞き取ることができる。	A(1)イ	90.9
4	2	(1)	①	さんぽ				◎	②漢字を読む	④言語事項	第四学年配当漢字を読むことができる。	言語事項(1)イ(ア)	97.6
5			②	ほうい				◎			第四学年配当漢字を読むことができる。	言語事項(1)イ(ア)	73.0
6			③	はた				◎			第四学年配当漢字を読むことができる。	言語事項(1)イ(ア)	94.2
7			④	あ				◎			第四学年配当漢字を読むことができる。	言語事項(1)イ(ア)	90.6
8		(2)	①	練習				◎	③漢字を書く		第三学年配当漢字を書くことができる。	言語事項(1)イ(ア)	85.7
9			②	回転				◎			第三学年配当漢字を書くことができる。	言語事項(1)イ(ア)	71.4
10			③	箱				◎			第三学年配当漢字を書くことができる。	言語事項(1)イ(ア)	90.5
11			④	重い				◎			第三学年配当漢字を書くことができる。	言語事項(1)イ(ア)	82.8
12	3	(1)	①	4				◎	④言葉の学習	④言語事項	修飾・被修飾の関係を理解している。	言語事項(1)オ(ア)	28.8
13			②	3				◎			修飾・被修飾の関係を理解している。	言語事項(1)オ(ア)	71.6
14		(2)		げ、が （完答）				◎			送り仮名に注意して、活用についての意識をもって書くことができる。	言語事項(1)オ(ア)	87.2
15		(3)		3				◎			ローマ字で表記された単語を読むことができる。	言語事項(1)エ(ア)	48.8
16	4	(1)		3			◎		⑤物語の内容を読み取る	③読むこと	叙述に即して、登場人物の心情を読み取ることができる。	C(1)ウ	62.2
17		(2)		犬			◎				叙述に即して、登場人物の心情を読み取ることができる。	C(1)ウ	75.4
18		(3)		2			◎				叙述に即して、登場人物の発言の根拠を読みとることができる。	C(1)ウ	87.4
19		(4)		1			◎				登場人物の心情を理解し、適切な語句を選択することができる。	C(1)ウ	82.8
20		(5)		3→2→1 （完答）			◎				叙述に即して、場面の移り変わりを想像しながら読むことができる。	C(1)ウ	21.4
21	5	(1)		1			◎		⑥説明文の内容を読み取る	③読むこと	目的に応じて、内容を大きくまとめて文章を読むことができる。	C(1)オ	70.1
22		(2)		4			◎				中心となる語や文をとらえて、段落相互の関係を考えることができる。	C(1)イ	79.3
23		(3)		アメリカの西海岸			◎				指示語の指示内容を理解して、文章を正しく読むことができる。	C(1)イ	70.7
24		(4)		3			◎				文と文のつながりを理解して、文章を正しく読むことができる。	C(1)イ	63.8
25		(5)		2			◎				目的に応じて、細かい点に注意して文章を読むことができる。	C(1)オ	61.9
26	6	(1)		①ウ、②イ、③ア、④エ （完答）		◎			⑦作文	②書くこと	段落相互の関係を考え、文章の組み立てを考えることができる。	B(1)ウ	68.9
27		(2)	①	（6行以上10行以内＝101～200字で書く）		◎					相手や目的に応じて、適切に書くことができる。	B(1)ア	78.8
28			②	（2段落構成で書く）		◎					段落と段落の続き方に注意して書くことができる。	B(1)エ	57.1
29			③	（本を読むことが「好き」か「きらい」かを書く）		◎					書く必要のある事柄を収集したり選択したりして書くことができる。	B(1)イ	89.2
30			④	（好きかきらいかの「理由」を書く）		◎					自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えて書くことができる。	B(1)ウ	79.7

◎…主たる観点

※いずれも3・4年

(4)大問ごとの分析と考察

大問１

［１］解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
1	1	(1)		○	1	1	86.3
					2	2	7.6
					3	3	2.7
					4	4	2.2
					上記以外の解答	9	0.5
					無解答（無記入の場合）	0	0.8
2		(2)			1	1	0.3
					2	2	1.6
				○	3	3	95.6
					4	4	1.2
					上記以外の解答	9	0.4
					無解答（無記入の場合）	0	0.8
3		(3)			1	1	2.0
				○	2	2	90.9
					3	3	3.1
					4	4	2.7
					上記以外の解答	9	0.4
					無解答（無記入の場合）	0	0.9

［２］出題のねらい

学習指導要領３・４年の「話すこと・聞くこと」の目標は、以下のとおりである。

「相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話すことや話の中心に気をつけて聞くことができるようにするとともに、進んで話し合おうとする態度を育てる。」

この問題では「目的に応じ、話の中心に気をつけて聞く力」を問うこととし、そのため「要点などをメモにとりながら聞く」という言語活動を取り入れてみた。

（１）は、だれがどのような順番で意見を提案しているのかについて聞き取る問題である。話の順序・要点に気をつけて、話の組み立てを意識して聞く力を問うている。

（２）は、最終的な話し合いの結論は何であったかについて聞き取る問題である。話し合いの内容を細部まで聞くとともに、内容を整理し、最終的な結論を正しく聞く力を問うている。

（３）は、話の中心に気をつけて聞き、司会者の役割の工夫を聞き取る問題である。司会者が工夫している言葉遣いに着目するなど具体的な観点をもって聞く力を問うている。

放送問題を聞いて問いに答えるという経験は初めての児童も多かろうと考え、今までに経験したことのある馴染み深い行事である「６年生を送る会」の内容についての話し合いを場面に選んで出題した。また、大事なことはきちんと一度で聞き取る習慣を身につけさせたいという考えから、放送は繰り返しをせず、一度だけ流すこととした。

なお、話すことについては、その力をペーパーで問うことは困難であるとの理由から、今回も設問から外した。

［３］解説

「聞く力」の平均正答率は 90.9%であり、良好であった。この調査で見る限り、聞く力は育っているといえるだろう。ただし、

①児童の生活に身近で経験のある「６年生を送る会」を題材にした問題であり、話し合いの参加者の立場になって共感しながら考えることができたこと。

②本調査最初の発問であり、各自が緊張感をもって聞き取りを行うことができたこと。

なども、結果によい影響を与えているように思われる。

（２）（３）の正答率が 90%以上を占めるのに比べ、（１）は 86.3%と若干低くなっている。これは、（２）が話し合いの結論を問うもの、（３）が司会者の工夫を問う問題であったことに対し、（１）は話し合い全体をとらえた上での「話の順序性」を問う問題であったため、メモが活用しにくかったのではないかと考えられる。

今回の問題文では、それぞれの話し手が以下のような点を工夫している。

（１）に関しては、問題文の冒頭において、ナレーターが「だれが、どんな意見を言ったか、メモをとりながら聞きましょう」とメモをとる観点をあらかじめ与えている。また、３人が順番に意見を提案した後で、司会者が「はじめに」「次に」「最後に」と順序を表す言葉を用いて３人の意見を繰り返し、誰がどの順番で言ったのか確認をしている。

（２）に関しては、司会者が「ドッジボールか劇かどちらかに絞ったほうがいい」と話の筋道を整理した後、原さんも、小川さんも、「ドッジボールに賛成」の立場を明確にしている。最終的に「はじめに、ドッジボール大会をし、最後に歌のプレゼントをする」という結論を司会者が再度強調している。

（３）に関しては、以下のとおりである。

１は、司会者の役割としては正しいが、今回の題材内容には「話題がそれたので、元にもどしている」場面はないので、適さない。

２は、「意見をまとめてみますね」などと意見を整理していることから、正解である。

３は、「自分の意見を、はっきりと述べている」のは司会者ではなく、話し合いの意見を言う立場の児童であるために誤答である。

４は、意見を出し合いながら結論を導くことから、司会者の独断で結論を下すものではないので誤答である。

司会者の役割として、提案された意見を整理したり、話の筋がそれたら、中心に戻したりすることが挙げられる。（３）の問題文では、「３人の意見をまとめてみますね」などと司会者が工夫している言葉遣いに着目し、司会者の役割を意識しながらメモをとることが必要であった。

以上のような言葉に着目し、整理をしてメモをとっていれば比較的容易に解答できる問題である。誤答した児童は、メモをとらなかったか、メモを的確にとることができず、大事な言葉を聞き逃してしまったのではないかと考えられる。相手が伝えたいことを正確に聞き取るという観点で、事柄の順序や要点、中心などをおさえて、話の組み立て方を意識しながらメモを取るような力の育成が望まれる。そのためには、大事なことや連絡事項を短い言葉で的確にメモをとる日常的な指導を図っていくとともに、見学や話し合い活動などの場面で、メモの活用を積極的に取り入れていきたい。また、国語科の時間だけでなく、学級活動や代表委員会、日常的な活動の中での話し合い活動の場を通して、意図的に「司会者の役割」を指導していくことも大切である。

大問２

［１］解答類型別の出現率

問題番号 No	大問	中問	小問	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
4	2	(1)	①	○	さんぽ	1	97.6
					さんほ	2	0.2
					上記以外の解答	9	1.4
					無解答（無記入の場合）	0	0.8
5			②	○	ほうい	1	73.0
					ほおい	2	0.7
					しゅうい	3	2.3
					上記以外の解答	9	13.0
					無解答（無記入の場合）	0	11.0
6			③	○	はた	1	94.2
					き	2	0.1
					上記以外の解答	9	2.8
					無解答（無記入の場合）	0	3.0
7			④	○	あ	1	90.6
					きょ	2	0.0
					上記以外の解答	9	6.9
					無解答（無記入の場合）	0	2.4
8		(2)	①	○	練習	1	85.7
					「練」だけが誤答だった場合	2	5.8
					「習」だけが誤答だった場合	3	0.9
					上記以外の解答	9	2.2
					無解答（無記入の場合）	0	5.3
9			②	○	回転	1	71.4
					「回」だけが誤答だった場合	2	0.8
					「転」だけが誤答だった場合	3	16.2
					上記以外の解答	9	3.6
					無解答（無記入の場合）	0	8.0
10			③	○	箱	1	90.5
					相	2	0.3
					かんむり「竹」が間違っていた場合	3	0.3
					上記以外の解答	9	4.4
					無解答（無記入の場合）	0	4.5
11			④	○	重い	1	82.8
					思い	2	1.1
					「重」は書けていても送りがなが未記入だったり間違っていた場合	3	3.7
					上記以外の解答	9	5.7
					無解答（無記入の場合）	0	6.6

［２］出題のねらい

学習指導要領での漢字の扱いは、以下のようになっている。

「第３学年及び第４学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書くようにすること。」

そこで、（１）では４年生までに習った漢字を正しく読む力を、（２）では３年生までに習った漢字を正しく書く力を問うことにした。また、昨年よりも読みも書きもそれぞれ１問ずつ、合計２問増やすことにした。

（１）の①散歩（サンポ）②包囲（ホウイ）は、音読みの熟語を読む力、③旗（ハタ）は、送り仮名のない訓読みの漢字を読む力、④挙げる（アゲル）は、送り仮名のある訓読みの漢字を読む力を問うている。

（２）の①練習（レンシュウ）②回転（カイテン）は、音読みの熟語を書く力、③箱（ハコ）は、送り仮名のない訓読みの漢字を書く力、④重い（オモイ）は、送り仮名のある訓読みの漢字を書く力を問うている。（１）（２)を通して、音読み・訓読みの問題を、送り仮名の有無も含めた４種類のバランスを考えて出題した。

３・４年生では、漢字の画数の多さなどから漢字学習に抵抗を感じ始める児童も多くなりがちだが、その反面、画数の多い漢字には成り立ちがわかりやすく、とらえやすいものも多いのである。したがって、練習方法や辞書の活用の指導などを工夫して意欲づければ、逆に効果的な学習の成果を示すこともできるであろう。

［３］解説

「読み」は平均正答率が 88.9%と良好であった。特に①③④は、すべて 90%を超える正答率であった。その中で、②「包囲」の正答率が 73.0%と比較的低かった。また、無解答が 11.0%であった。「しゅうい」などの誤答から、熟語そのものの意味を理解できていないことがわかる。文脈に沿って読むような指導を充実させながら、熟語の意味などをきちんと理解させたり国語辞典で意味を調べる習慣をつけさせたりしていきたい。

「書き」は平均正答率が 82.6%となっており良好であった。特に③「箱」の正答率は 90.5%と大変良好であった。画数が多くても成り立ちを理解していれば定着する漢字の好例だといえる。他の漢字学習への指導や意識づけにも、ぜひ役立ててほしいところである。４問の中では②「回転」の正答率が 71.4%と比較的低かった。さらに「転」だけが誤答だった割合が 16.2%と高かった。この原因として「軽」など形が似た漢字との区別が曖昧なまま覚えてしまっていること、ふだんのノート記述で既習漢字を使わず、平仮名表記で済ませてしまう児童が多いことなどが考えられる。

日常から既習漢字を記述させたり、忘れてしまったら辞書や教科書の巻末にある漢字一覧を活用させたりして、既習漢字の定着を図っていきたい。

大問３

［１］解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
12	3	(1)	①		1	1	2.1
					2	2	50.0
					3	3	17.7
				○	4	4	28.8
					上記以外の解答	9	0.4
					無解答（無記入の場合）	0	1.1
13			②		1	1	10.3
					2	2	14.4
				○	3	3	71.6
					4	4	2.1
					上記以外の解答	9	0.3
					無解答（無記入の場合）	0	1.3
14		(2)		○	げ、が　（完答）	1	87.2
					げ、げ	2	0.4
					が、が	3	3.8
					上記以外の解答	9	7.1
					無解答（無記入の場合）	0	1.5
15		(3)			1	1	10.9
					2	2	17.4
				○	3	3	48.8
					4	4	19.7
					上記以外の解答	9	0.1
					無解答（無記入の場合）	0	3.1

［２］出題のねらい

学習指導要領に記載されている言語に関する事項のうち、「イ　文字に関する事項」の中からローマ字の表記法について、「エ　語句に関する事項」の中から語句の役割の上での類別について、「オ　文及び文章の構成に関する事項」の中から文の構成の初歩的な理解について、それぞれの指導内容の定着度を測る問題である。

（１）は、修飾語がくわしくしている言葉をさがす問題である。修飾語を使うことで情報量が増し、表現力もより豊かになっていく。ここでは、修飾語のもつそのような働きについての初歩的な理解を問うている。昨年度も同様の出題をしたが、正答率が低かったため、本年度も同じねらいで出題をした。

（２）は、動詞の活用についての基礎的な理解を問う問題である。語句の文法的な働きを、文法そのものとしてではなく、語句の使い方として理解することは、文を作る上できわめて重要である。ここでは、それらの理解にたって文を構成していく力を問うている。

（３）は、ローマ字の表記方法の理解を問う問題である。最近では、英語活動、パソコン教育の導入により、ローマ字の基礎的能力が必要な環境にある。そのため、児童が日常、目にする簡単な単語の表記方法の定着度合いを見る問題にした。

［３］解説

（１）の①は 28.8％と、昨年同様に言語事項の全問中最低の正答率となった。「そよそよ」の直後にある「ゆれている」が正解であり、文の構造としては比較的易しいものである。「すすき」を選んだ児童が 50.0％もいたのは、「そよそよとゆれているものはなに」かと考えて答えを導き出したためと考えられる。「風」と答えた児童も 17.7％おり、意味的に関連する言葉を選んだのではないかと思われる。

一方で、②の正答率は 71.6％と①を大きく上回った。誤答で最も多かったのは、「赤い」を選んだ 14.4％である。これは、修飾・被修飾の関係について深く考えず、直後の単語を選んだためではないかと思われる。

「くわしくする言葉」は、３年生で学習する内容である。こうした言語事項については、取り立てて指導を行うための配当時数が少ないこともあって、定着が図られにくいという面がある。言語事項は各領域を貫いて指導すべき内容であるので、読むことや書くことの学習においても継続的、意図的に指導していきたい。指導法としては、言葉の意味だけに着目させるのではなく、文脈に沿って内容を考えさせるようにしたり、文章の一部分を視写させ、その中からくわしくする言葉を見つけることによって読みを深めたりするなど、具体的に取り上げていくことが重要であろう。

（２）の正答率は 87.2％で良好である。温度を「上がる」とした誤答は 3.8％だが、これは主述の関係が読み取れなかったためであると思われる。

小学校の段階では、動詞の活用について系統立てて学習するわけではないが、書くことの学習の際、活用が意識されていなければ、正しく文を書くことができない。日頃から文脈の中で言葉がどのように変化して使われているのか意識させる指導を行う必要がある。

（３）は、48.8％という低い正答率であった。誤答も各選択肢に分散していることから、ローマ字の基礎的表記が身についていないことがわかる。これからの時代を生きる子どもたちに必要な基礎的知識であるので、国語科として学習するだけでなく、あらゆる機会を通して身につけさせたい。

最近ではローマ字表示が添えられた案内板などが多くなり、児童の生活に身近なものになっている。日常的に看板などを見て意識を高めることも有効であろう。また、市内のある学校では、ローマ字で書かれた昔話や説明文などを与えてローマ字表を手がかりに読ませるという実践を試み、児童の知的好奇心をそそり、興味を喚起させ、学習効果をあげたという報告もなされている。

大問４

［１］解答類型別の出現率

問題番号 No	大問	中問	小問	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
16	4	(1)			1	1	4.4
					2	2	27.3
				○	3	3	62.2
					4	4	4.8
					上記以外の解答	9	0.2
					無解答（無記入の場合）	0	1.1
17		(2)		○	犬	1	75.4
					ママ	2	0.7
					上記以外の解答	9	17.8
					無解答（無記入の場合）	0	6.0
18		(3)			1	1	4.0
				○	2	2	87.4
					3	3	5.0
					4	4	2.1
					上記以外の解答	9	0.2
					無解答（無記入の場合）	0	1.3
19		(4)		○	1	1	82.8
					2	2	1.5
					3	3	7.5
					4	4	6.4
					上記以外の解答	9	0.4
					無解答（無記入の場合）	0	1.4
20		(5)		○	３→２→１　（完答）	1	21.4
					１→２→３	2	48.2
					２→３→１	3	2.4
					３→１→２	4	8.5
					上記以外の解答	9	17.3
					無解答（無記入の場合）	0	2.2

［２］出題のねらい

学習指導要領の３・４年の「読むこと」の目標は、以下のとおりである。

「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」

特に文学的な文章では、想像的に読み進めていく力を身につけさせたい。つまり「場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読む力」である。

（１）（３）は、前後の叙述を手がかりに心情を読み取る問題。（２）は、前後の叙述から空欄に入る言葉を考える問題。（４）は、文章全体や前後の叙述から人物の心情を表すのにふさわしい言葉を選び取る問題。（５）は、物語の時間的順序を読み取る問題である。

［３］解説

（１）は、ハヤンの赤ちゃんを飼えることになったえりなの心情を問う問題で、正答率は 62.2％とやや低い結果である。「ハヤンやハヤンの赤ちゃんを思い出したことに自分でもびっくりした」という誤答が 27.3％もあったことは予想外であった。これは下線部直前の「～思い出した。」という２文が選択肢の中にあることで選んでしまったのではないかと思われる。また、「ひとりでに」という言葉やその後のえりなの行動描写から、えりなの喜びの心情を読み取ることができなかったことが原因であると思われる。直感的な印象で答えるのではなく、叙述に即して登場人物の心情を読み取る力を育てたい。

（２）は、兄が「ふてくされた」理由を文章中から探す問題である。漢字一文字という指定を見落とさないことと、前の部分の母の言葉を手がかりにして読むことが大切である。「犬は大変だけど、ネコならなんとかなる。」という母の言葉に喜ぶえりなとふてくされる兄との対比が楽しい場面である。登場人物の行動を対比させることで心情を想像することができる。言葉の一つ一つを大切にしながら読み進める姿勢を育てたい。正答率は 75.4％であった。

（３）は、母がえりなに言った「そんなに喜ばないの」という言葉の理由を問う問題である。母の直後の言葉を読むことで母の心情を読み取ることができる。87.4％と高い正答率を得た。誤答した児童には、根拠を明らかにして読む姿勢を育てたい。

（４）は、えりなの心情を読み取り、空欄に入る感情を表す形容詞を選択肢から選ぶ問題である。正答率は 82.8％であった。「でも、やっぱり～」「～より～したい」という逆接の表現を理解していれば、ここには肯定的な言葉が入ることがわかる。また、その後の部屋を飛び跳ねてまわるえりなの様子からも「たいへんだろうけれど、やっぱりうれしい。」という心情を読み取ることができる。誤答した児童には、叙述から心情を読み取る力を育てたい。

（５）は、物語の中の時間的な順序を読み取る問題である。21.4％と全問題中最低の正答率である。時間的な順序を読み取れずに単に文章に出てきた順番に並べた誤答が 48. 2％と、およそ半数の児童である。これはまず、「はじめに起きたできごとから古い順番にならべかえる」という問題の意味が理解できていないのではないかと思われる。本文だけでなく問題文を正しく読み、問われている内容を正確に理解する力も必要である。さらに、時系列にそって出来事を並べるのだから「昨日」「去年」といった言葉を手がかりにして考え、細かい点にまで注意して文章を正確に読み取る力を育成したい。また、子どもたちに話の筋道を考えさせる話や文章に出会わせることも大切にしていきたい。

全体を通して、叙述に即して丁寧に読み進めていく意識を子どもたちに持たせることが大切であると感じた。そのためには、読みの課題を子どもたちに対して明確にし、様々な工夫を取り入れた日常の指導の積み重ねが大切である。また、（５）のように文章全体の構成をとらえる力が弱いことも明らかになった。例えば、私たちは子どもたちにわかりやすくと思うあまりに、話の順序がいつも同じことが多いのではないだろうか。時には、話の組み立てを変え、子どもたちが立ち止まって考える、そんな場面を作ることも必要である。そのような日常の言語環境が、言葉に着目して読み、文章構成をとらえる力のひとつになるのではないかと思われる。

大問５

［１］解答類型別の出現率

問題番号 No	大問	中問	小問	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
21	5	(1)		○	1	1	70.1
					2	2	19.0
					3	3	3.3
					4	4	5.8
					上記以外の解答	9	0.1
					無解答（無記入の場合）	0	1.5
22		(2)			1	1	1.2
					2	2	3.9
					3	3	5.3
				○	4	4	79.3
					5	5	2.3
					6	6	1.7
					上記以外の解答	9	0.3
					無解答（無記入の場合）	0	5.8
23		(3)		○	アメリカの西海岸	1	70.7
					ロサンゼルス（の博物館）	2	0.1
					上記以外の解答	9	20.5
					無解答（無記入の場合）	0	8.7
24		(4)			1	1	6.0
					2	2	2.7
				○	3	3	63.8
					4	4	24.5
					上記以外の解答	9	0.5
					無解答（無記入の場合）	0	2.5
25		(5)			1	1	7.9
				○	2	2	61.9
					3	3	14.0
					4	4	12.9
					上記以外の解答	9	0.2
					無解答（無記入の場合）	0	3.1

［２］出題のねらい

学習指導要領３・４年の「読むこと」の目標は、以下のとおりである。

「目的に応じ、内容の中心をとらえたり、段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」

ここでいう「中心」とは、一般には「中心語」「中心文」「中心段落」等、文章全体の中で相対的に重要と位置づけられている部分ということである。中心をとらえるためには接続語、指示語、繰り返し語句などの役割をおさえながら段落のつながりを理解し、内

容や要旨を的確に把握することが必要である。そうした力の定着を測るために、以下のような問題を設定した。

（１）は、日本で生まれた子ガメの何が疑問なのかを選ぶ問題である。文章全体の内容から、テーマを読み取れているかを問うている。

（２）は、筆者の疑問を解決するための「行動」がどの段落に書かれているかを選ぶ問題である。中心となる語句や文から段落相互の関係を考え、正しく文章を読み取る能力を問うている。

（３）は、文中の「この辺り」が指すものを示す問題である。指示語の指示内容を理解して、文章を正しく読み取る能力を問うている。

（４）は、筆者の考えの根拠となっている事柄を選ぶ問題である。文と文とのつながりを理解して、文章を正しく読むことができるかを問うている。

（５）は、文章に書かれている内容を正確に読み取って、本文の内容にふさわしい選択肢を選ぶ問題である。目的に応じて細かい点に注意して文章を読む能力を問うている。

［３］解説

大問５の平均正答率は 69.2％で概ね良好であった。日常の読書において、論理的な文章は、文学的文章に比べて読む機会が少ないと思われる。目的意識や必要感をもって論理的文章を読み、内容や要旨を的確に把握する力をつけていきたい。

（１）は、「うまれた子ガメは、海に入って、どこへ行くのか」という1段落の話題を受けて、2段落で「日本でうまれた子ガメはどこへ行くのか」という問題を提起していることを読み取れているかを問う問題である。正答率は 70.1％と概ね良好であった。

しかし、19.0％の児童が1段落の３番目の文の冒頭部分に着目して「どこでどのように成長するのでしょうか」にしていた。2段落が問題提起をしていることに気づいていないのではないかと思われる。ちなみに本文における段落の役割は以下のとおりである。

1は話題を示し、2は1を受けて問題提起。3は筆者の推定、仮説。4は仮説を確認するための調査と、その結果。5は結果の分析。6はまとめとしての結論。説明文の基本的な構造について理解させたい。

（２）の正答率は 79.3％と概ね良好であった。しかし、筆者の行動について書かれている段落を選ぶという選択問題であったにもかかわらず、正解しなかった児童の中では無解答が一番多く、5.8％の児童の解答欄が無記入だった。中心となる語句や文をとらえ（本文では、「そんな疑問を解決するため」「調査に向かい」など）、段落ごとに書かれている内容を理解する力を養いたい。

（３）は「この辺り」が指している箇所を問う問題である。正答率は 70.7％で概ね良好であった。「ウミガメの産卵場」や「一万キロメートル」など、「この辺り」と同じ段落にある８文字の言葉による誤答が目立ち、予想された誤答「ロサンゼルスの博（物館）」とした児童は 0.1％と少なかった。重要語句や文と文との関係に注意して指示語の示す内容を読み取りながら、文章を丁寧に読み進めていく力を身につけさせたい。

（４）は、筆者の考えの根拠となる事柄を問う問題である。正答率は 63.8％であった。誤答で多かったのは選択肢４「沖縄で放流されたカメがそこで見つかったこと。」で 24.5％であった。「ですから」という接続語の役割を見落とし、筆者の考えと前後の文との関係をとらえていないものと思われる。接続語の役割に注意して、文と文との関係やつながりを理解しながら読む態度を育てたい。

（５）は、本文を正確に読み取り、段落相互の関係も考えながら選択肢を選ぶ必要があり、説明文読解における総合的な力が問われる問題である。いわば要旨をとらえる力を問うていると言ってもよい。本文を正確に読まないと間違えるような紛らわしい選択肢も入れてみたが、正答率は 61.9％であった。2の問題提起と6のまとめとしての結論とを関連づけて書かれてある２が正解である。

大問６

［１］解答類型別の出現率

問題番号 No	大問	中問	小問	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
26	6	(1)		○	①ウ　②イ　③ア　④エ　（完答）	1	68.9
					①ア　②イ　③ウ　④エ	2	0.7
					①ウ　②ア　③イ　④エ	3	2.4
					①イ　②ウ　③ア　④エ	4	7.2
					上記以外の解答	9	17.1
					無解答（無記入の場合）	0	3.7
27		(2)	①	○	６行以上 10 行以内（101 字以上 200 字以内）で書いている場合	1	78.8
					11 行以上（201 字以上）で書いている場合	2	0.3
					上記以外の解答	9	12.0
					無解答（無記入の場合）	0	8.9
28			②	○	２段落構成で書いている場合	1	57.1
					２段落に分けて書いているようだが、段落の書き始めの１マス空けができていない	2	5.4
					３段落以上で書いている場合	3	19.5
					上記以外の解答	9	9.2
					無解答（無記入の場合）	0	8.9
29			③	○	本を読むことが「好き」か「きらい」の立場を書いている場合	1	89.2
					上記以外の解答	9	1.9
					無解答（無記入の場合）	0	8.9
30			④	○	本を読むことが「好き」か「きらい」かの理由を書いている場合	1	79.7
					「好きだから」「きらいだから」などだけで、理由が明確でない場合	2	5.7
					上記以外の解答	9	5.7
					無解答（無記入の場合）	0	8.9

［２］出題のねらい

学習指導要領３・４年の「書くこと」の目標は、以下のとおりである。

「相手や目的に応じ、調べた事などが伝わるように、段落相互の関係などを工夫して文章を書くことができるようにするとともに、適切に表現しようとする態度を育てる。」

文部科学省は、2000 年 PISA 調査の結果から、改善の具体的な方向に「テキストに基づいて自分の考えを書く力を高めること」「様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実すること」を取り上げている。また、国語科を中心に、すべての教科・領域において、書くことの大切さ、書く力を育てることの重要性が見直されている。以上のことを意識しながら、出題をした。

（１）は、４枚のカードを並び替え、「初め」「中」「終わり」の欄からなる構成メモを完

成させる問題である。ここでは、段落相互の関係に留意して文章の構成を工夫する能力を問うている。PISA の読解力調査では、本文以外に視覚に訴える映像（地図、グラフ、一覧表、絵、写真など）が本文と同等に扱われており、それらを相互に関係づけた読み取りが大切にされている。そこで、アンケート調査の結果を文章で表すだけでなく、グラフでも表し、文章と資料とを関連させながら文章を構成するという設定をした。

（２）は、与えられた手がかりや条件をもとに、自分の考えを持ち、構成を考えながら文章に記述する問題であり、表現しようとする意欲と能力を問うている。前回の調査では自由記述式の問題を出題したが、記述された内容を問わないことへの疑問が寄せられていたことから、今回の問題は、採点基準を４つ設けて出題することとした。

［３］解説

（１）の正答率は 68.9％と、概ね良好な結果となっている。これは、

①問題文が、「初め」＝問題提起　「中」＝調査方法・調査結果　「終わり」＝まとめという基本的な構成であること。

②４年生の「生活を見つめて」の学習や日頃の作文学習の中で構成メモを使った活動に慣れていること。

などが理由であると考えられる。

なお、「初め」の部分に、「アンケートを取り、その数をグラフで表す」という調査方法を最初に持ってきてしまった解答（イウアエ）が 7.2％見られた。ウのカードには、何を調べるのかという話題が書かれている。また、グラフ資料の表題にも何について調べたものか明示されている。文章と資料とを関連づけて読み取ったり書いたりする機会は説明文を扱った学習に多く見られるので、意識して指導していくことが大切である。また、他教科や総合的な学習の時間においても意図的に指導したい。

（２）は、注意する点を４つ示し、採点基準としている。

①は、定められた文字数で自分の考えをまとめる問題である。正答率は、78.8％である。無解答は、8.9％であった。この中には時間不足の無解答も含まれているので、書くことを嫌がる傾向とは言えず、概ね良好な結果であったといえる。

②は、２段落構成で書くことである。正答率は、57.1％と低い結果であった。３段落以上で書いている児童が 19.5％いることがわかる。段落の役割について確認し、日常的に指導していく必要性がある。例えば、まず取材段階では、書きたいことについてイメージマップを書かせたり作文メモを書かせたりして想を広げさせることが大切である。次に、構成段階では、カードに小見出し、あるいは箇条書きに書かせたりして、それに番号をふって書く順序を考えさせるような活動などが挙げられる。段落を意識して文を構成させる手順を経験させたい。

③は、自分がどの立場であるかを書く問題である。正答率は 89.2％で、良好であった。問いに対して自分の考えを持つことは、できているようである。

④は、自分の立場の根拠・理由を書くことである。正答率は 79.7％で、概ね良好な結果であった。様々な具体的な目的を設定し、自分の考えをより明確に説明することに慣れていくようにさせたい。

今回は、以上の採点基準を設けて実施してみたが、さらに今後の作問にあたっても検討していきたい。

(5)今後の指導にあたって

○話すこと・聞くこと【大問１】

聞く力についての調査結果は、昨年に引き続き、概ね良好であった。誤答した児童は、聞いた内容を整理しながらメモを取ることに慣れていないのではないかと思われる。国語の学習はもとより他教科の学習や各種の連絡などでもメモを積極的に活用させ、事柄の順序や要点、中心などをおさえて、話の組み立て方を意識しながらメモを取ることのできる力を育てていきたい。また、今回の問題文では、３人の意見を整理している司会者の役割がとても重要な働きをしているが、様々な話し合い活動の場を通して、意図的に児童を司会者として育てていくことも大切である。

○書くこと【大問６】

構成メモを完成させる問題と与えられた条件をもとに文章記述する問題を出題したが、書く力は概ね良好であった。特に文章記述問題については、自由記述式から条件付き記述に変更したが、概ね良好であった。本市においては、様々な文集が発行されるなど充実した作文指導が行われており、指導法においてもよき伝統が継承されていることの結果であると思われる。今後も大切にしていきたい。

この結果に満足することなく、相手意識・目的意識をより明確にした書く活動に取り組ませることで、書く力の向上を図りたい。

○読むこと【大問４・５】

読む力は、物語文、説明文いずれにおいても一部の問題を除いて概ね良好であった。

全体的に、細かい点にまで注意して叙述を丁寧に読む力を育てていく必要性を感じた。物語文では重要語句と関連づけて情景や心情を読み取る指導、説明文では指示語や接続語、段落相互の関係などの指導を十分行っているか再点検する必要があろう。学習指導要領の基本方針に「文学的な文章の詳細な読解に偏りがちな指導の仕方を改め」ということが掲げられて以来、物語文や説明文の教材文を丁寧に読まず、紙芝居やペープサート作りなどの活動に多くの時間を割くような指導が増えてきている。言語の教育であるという原点に立ち帰って、一つ一つの表現をじっくりと読むような姿勢と能力を育てていきたい。

○言語事項【大問２・３】

漢字については良好な結果が得られたが、「包囲」という漢字を読めなかったり、「回転」という言葉を書けなかったりする児童が少なくなかった。漢字や熟語のつくりに関心が向くような指導を工夫したり国語辞典を身近に置いて活用する習慣をつけさせたりしたい。あるいは、作文やノート、日記や連絡帳など様々な書く場において、既習の漢字を積極的に使うよう指導し、定着を図っていきたい。

また、文法的な内容である修飾・被修飾を問う問題での正答率は、今回も極めて低かった。こうした言語事項は、一度学習しただけではなかなか定着しないものである。読むことや書くことの領域の中でも繰り返し指導し、定着を図っていく必要性を感じた。例えば、取り立て指導だけではなく、文脈に沿って内容を考えさせたり表現の工夫に気づかせたりする指導も効果がある。

◎全体を通して

全体としては概ね満足できる結果が得られたが、今後取り組むべき課題も見えてきた。

この調査は「指導に生かす」ことを目的として実施されたものであるから、各学校、各学級においても課題を整理し、各大問の「出題のねらい」「解説」を参考にして、明日からの国語の指導に生かしていくことが望まれる。

なお、言葉の力を育てるには、国語の時間に指導するだけでは不十分である。言語環境を整備したり読書活動を充実させたりするなど、教育課程の全体を通じて育てていくよう、各学校において工夫していきたい。

2.　算　　数

（1）作問にあたって

①　本調査は、川崎市全体の５年生の子どもの学習状況を把握し、「生きる力」を育む教育課程や指導法の検証・改善に生かすこと等をねらいとして行われるものである。そこで、４年生までの学習範囲で基礎・基本の定着の様子をみることができる問題を出題するように努めた。

②　学習指導要領において、算数科は「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の４領域で構成されている。そこで、幅広い範囲において学習状況を把握していくために、４領域の項目についてすべて網羅するように問題を出題した。

③　主たる評価観点を考えた上で問題を作成したが、「算数への関心・意欲・態度」の評価観点については、ペーパーテストでみることは難しいと考え、評価の観点としては省いた。他の「数学的な考え方」「数量や図形についての表現・処理」「数量や図形についての知識・理解」の３観点については網羅するようにした。しかし、「数学的な考え方」は、本来、論理的な思考過程をみるものであり、表出しにくい面があることは念頭に入れておく必要がある。

④　指導法の検証・改善等、今後の指導に生かしていくことが本調査の目的である。したがって、誤答からなぜそうした間違いをするのか、調査後どのような点に気をつけて指導していけばよいのかがわかるように問題を作成した。

（2）領域ごとの結果

領域		該当する問題番号	正答率(%)
A	数と計算	1 (1) (2) (3) (4) 2 (1) (2) (3) (4) (5) 3 (1) (2)　4 (1) (2) 6	75.8
B	量と測定	7 (1) (2)　8 9 (1) (2) (3)	68.5
C	図形	10 (1) (2) (3) (4) 11 (1) (2)	68.3
D	数量関係	1 (5) (6)　5 (1) (2) 12 (1) (2)　13 (1) (2) 14	76.8

（3）出題・観点等一覧（次ページ）

出題・観点等一覧

問題番号 No.	大問	中問	小問	正答（選択式→番号，記述式→言葉）	観点 数学的な考え方	観点 数量や図形についての表現・処理	観点 数量や図形についての知識・理解	問題の内容	領域	出題のねらい	学習指導要領	正答率(%)
1	1	(1)		19.3		◎		①分数，小数	A数と計算	小数第一位までの小数の加法ができる。	4年A(4)ウ	89.6
2		(2)		26.4		◎				小数第一位までの小数の減法ができる。		65.1
3		(3)		12		◎		②わり算		(2けた)÷(1けた)の除法ができる。	4年A(3)ア，イ	89.9
4		(4)		2あまり11		◎				(2けた)÷(2けた)の余りのある除法ができる。		73.6
5		(5)		55		◎		③式と計算	D数量関係	四則混合計算ができる。	4年D(2)ア	80.2
6		(6)		6		◎				(　)を使った四則混合計算ができる。		85.8
7	2	(1)		1.8			◎	①分数，小数	A数と計算	数直線上に表された小数をよみとり，表すことができる。	4年A(4)ア，イ	89.9
8		(2)		6.9		○	◎			小数のしくみがわかる。		92.7
9		(3)		7(こ)			◎			分数を単位分数のいくつ分かで表すことができる。	4年A(5)ア，イ	96.2
10		(4)		３ ３/５		◎	○			仮分数を帯分数で表すことができる。		81.1
11		(5)		①，④(順不同，完答)			◎			仮分数がわかる。		52.8
12	3	(1)		③		○	◎	④大きな数	A数と計算	位取り記数法を理解し，一億より大きい数を表すことができる。	4年A(1)ア	77.8
13		(2)		④		○	◎			一億より大きい数の相対的な大きさがわかる。		78.3
14	4	(1)		860000		◎	○	⑤がい数	A数と計算	四捨五入を理解し，一万の位までの概数で表すことができる。	4年A(2)イ	69.4
15		(2)		②	◎	○	○			概数に対応する数の範囲がわかる。	4年A(2)ア，イ	59.2
16	5	(1)		③	○	◎		③式と計算	D数量関係	四則混合計算の仕方がわかり，問題から正しい式を選択できる。	4年D(2)ア	52.7
17		(2)		①	◎	○	○			四則混合計算の仕方がわかり，指定された式になる問題を選択できる		65.8
18	6			③	◎		○	②わり算	A数と計算	除法の問題を図に表すことができる。	4年A(3)ア	45.7
19	7	(1)		②			◎	⑥面積	B量と測定	適切な面積の単位がわかる。	4年B(1)ア	44.0
20		(2)		(式)7×10(＝70)　(答え)70(㎠)		◎				長方形の面積を求めることができる。	4年B(1)イ，ウ	93.7
21	8			③	◎		○	⑥面積	B量と測定	複合図形の面積の求め方を考えることができる。	4年B(1)イ，ウ	69.6
22	9	(1)		75(度)		◎	○	⑦角	B量と測定	分度器を用いた角度のはかり方がわかる。	4年B(2)ア，イ	81.3
23		(2)		9(こ)	◎	○	○			１回転してできる角の大きさがわかり，適用問題ができる。		67.6
24		(3)		125(度)	◎	○	○			角の性質がわかり，求めることができる。		54.8
25	10	(1)		い，お(順不同，完答)			◎	⑧円と球，三角形	C図形	いろいろな三角形の中から，二等辺三角形を選択することができる。	4年C(1)ア	69.3
26		(2)		８(まい)	◎	○	○			正三角形の性質がわかり，しきつめの図を考えることができる。		65.5
27		(3)		④	◎		○			正三角形の性質がわかり，適用問題ができる。		41.4
28		(4)		略(6cm，6cm，8cmの二等辺三角形)		◎	○			二等辺三角形の作図ができる。		82.8
29	11	(1)		④			◎	⑧円と球，三角形	C図形	円の半径がわかる。	4年C(1)ウ	64.4
30		(2)		3(こ)	◎	○	○			球の直径がわかり，適用問題ができる。		86.3
31	12	(1)		17(度)		◎	○	⑨折れ線グラフと表	D数量関係	折れ線グラフから，ある月の気温をよみとることができる。	4年D(1)イ	89.1
32		(2)		②		○	◎			折れ線グラフの，一番変化の大きい箇所を指摘できる。		76.8
33	13	(1)		２(人)		◎	○	⑨折れ線グラフと表	D数量関係	二次元表のよみ方がわかる。	4年D(3)ア，イ	79.2
34		(2)		34(人)		◎	○			二次元表のよみ方・かき方がわかる。		84.3
35	14			9(こ)	◎	○	○	⑩変わり方	D数量関係	伴って変わる二つの数量の関係をとらえることができる。	4年D(1)ア	77.5

【観点】◎…主たる観点　○…従たる観点

(4)大問ごとの分析と考察

大問１

［１］解答類型別の出現率

問題番号 No	大問	中問	小問	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
1	1	(1)		○	19．3	1	89．6
					18．3	2	0．3
					193	3	0．6
					17．9	4	1．3
					上記以外の解答	9	7．8
					無解答	0	0．4
2		(2)		○	26．4	1	65．1
					1．2	2	14．4
					27．4	3	2．9
					29．6	4	1．8
					264	5	0．3
					12	6	2．0
					上記以外の解答	9	12．4
					無解答	0	1．1
3		(3)		○	12	1	89．9
					10あまり２　または　10･･･２	2	0．3
					11あまり４　または　11･･･４	3	0．1
					432	4	0．0
					11あまり６　または　11･･･６	5	0．1
					上記以外の解答	9	7．7
					無解答	0	2．0
4		(4)		○	２あまり11　または　２･･･11	1	73．6
					３あまり21　または　３･･･21	2	0．0
					１あまり43　または　１･･･43	3	0．0
					2400	4	0．0
					２	5	1．0
					11	6	1．9
					上記以外の解答	9	20．1
					無解答	0	3．4
5		(5)		○	55	1	80．2
					100	2	11．3
					600	3	0．3
					29	4	0．2
					上記以外の解答	9	6．3
					無解答	0	1．8
6		(6)		○	６	1	85．8
					43	2	0．1
					12	3	0．2
					15	4	0．9
					上記以外の解答	9	9．9
					無解答	0	3．0

［２］出題のねらい

大問１は、４年生までに学習する計算問題をまとめて出題した。（５）（６）は「数量関係」領域の内容で、それ以外は「数と計算」の領域となっている。いずれの問題も、主たる観点は表現・処理である。

（１）は、小数の加法の問題である。一の位への繰り上がりはあるが単純な小数同士の計算なので、位を揃えて計算できるかどうかをとらえる問題として設定した。

（２）は、小数の減法の問題である。昨年、整数＋小数の正答率が低かったため、今年度もこの問題で整数と小数の計算を取り入れた。整数と小数との違い、位取りが確実にとらえられているかどうかをみることをねらった。

（３）は、（２けた）÷（１けた）であまりのない除法の問題である。基本的な除法の仕方がわかっているかをみるため、商が立てやすくわりきれる数値にした。

（４）は、（２けた）÷（２けた）のあまりのある除法の問題である。ここでは、除数が２桁の場合の計算ができているかをとらえる問題にするため、比較的商を立てやすい問題を設定した。「75÷30」のように商を見積もる仕方がわかっていれば、容易に解決できる数値を選んだ。

（５）は、四則計算の順番を問う問題である。四則が混じった計算では、乗法や除法を先に計算することができているかどうかをみるため、暗算でもできる数値を選んだ。

（６）は、（　）を使った四則計算である。（　）の中を先に計算することが確実にわかっているかどうかをみることを主としている。（　）の中には乗法と減法が入っているが、乗法が先にあるため、（　）内は順番通り計算すれば正答が得られるようになっている。

［３］解説

（１）「18.6＋0.7」の正答率は 89.6％と高く、小数点の位置を揃えて計算することが理解できていることがわかる。

（２）「28－1.6」の正答率は 65.1％と（１）に比べてかなり低くなる。誤答には「1.2」のように 28 を 2.8 にして計算してしまったものや、「27.4」のように繰り下がりを忘れたものが目立った。整数と小数の計算になるだけで、小数点の位置を揃えることが難しくなるのがわかる。しかし、昨年出した同様の問題「46＋4.3」の正答率 57.9％よりは高くなっており、各学校で小数点の位置を意識して指導した成果が上がったと思われる。

（３）「72÷６」の正答率は 89.9％と高かった。除数が１桁で割り切れる場合の除法はよく身についている児童が多いことがわかる。

（４）「75÷32」の正答率は 73.6％であった。（３）に比べて正答率が下がっているのは、除数が２桁であまりがあるといった点で難易度が上がっているためである。しかし、昨年出した同様の問題「62÷18」の正答率 66.0％よりは高くなっており、「商は一の位まで求めてあまりのある場合はあまりも出しましょう」ということをきちんと理解した上で解答できていることがわかる。

（５）「15＋10×４」は、80.2％と比較的高い正答率であった。概ね満足できる結果といえようが、「100」という誤答が 11.3％あったことからも、加法・減法より乗法・除法を先に計算するという四則演算のきまりを忘れてしまっている児童がいることがわかる。

（６）「60÷（4×3－2）」は、85.8％と（５）よりも高い正答率であった。前回の同様の問題「8×（12－9÷3）」の正答率が 56.8％であったのに比べると、正答率が格段と高まっている。今回の問題では、（　）内は順番通り計算すれば正答が得られるようになっているため、前回に比べて容易に解決できたのであろう。これらの結果から、（　）を先に計算するということは理解している児童が多いが、乗法・除法を先に計算するということを見落としがちであるということがわかる。日頃からこのような計算順序を問う問題については指導していくようにしたい。

大問２

［１］解答類型別の出現率

問題番号 No	大問	中問	小問	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
7	2	(1)		○	1．8	1	89.9
					2．2	2	0.0
					1．3	3	0.2
					0．8	4	1.0
					1　8/10(18/10)	5	1.1
					上記以外の解答	9	6.9
					無解答	0	1.0
8		(2)		○	6．9	1	92.7
					15	2	0.0
					69	3	0.2
					9．6	4	0.1
					上記以外の解答	9	6.2
					無解答	0	0.8
9		(3)		○	7（こ）	1	96.2
					6（こ）	2	0.6
					11（こ）	3	0.1
					7／11（こ）	4	1.0
					上記以外の解答	9	1.1
					無解答	0	1.0
10		(4)		○	3　3/5	1	81.1
					2　8/5	2	0.6
					1　13/5	3	0.2
					1　8/5	4	3.7
					3．6	5	0.0
					上記以外の解答	9	9.5
					無解答	0	4.9
11		(5)		○	①，④（順不同，完答）	1	52.8
					④	2	5.8
					①，②，④	3	3.8
					①，③，④	4	11.0
					①	5	1.0
					上記以外の解答	9	23.2
					無解答	0	2.4

［２］出題のねらい

大問２は、「数と計算」領域の「分数と小数」について取り上げた。分数・小数は４年生ではじめて学習する内容であり、高学年の「数と計算」領域の学習には分数・小数の意味理解が欠かせない。ここでは分数・小数にかかわる児童の実態をとらえられるような問題を設定した。（４）は表現・処理が主たる観点である。他の問題の主たる観点は

知識・理解である。

（１）は、数直線上に表された小数をよみとる問題である。小数も整数と同様に十進位取り記数法に基づいて表された数であることや数直線の見方がわかっているかを問うために設定した。

（２）は、小数の仕組みがわかっているかを問う問題である。

（３）は、分数が単位分数のいくつ分かで表せることが理解できているかどうかを問う問題である。

（４）は、仮分数を帯分数で表す問題である。分数の大きさをとらえる場合に帯分数に表すことは有効な手段であり、それができるかどうかを問うために設定した。

（５）は、４つの分数の中から仮分数を見つける問題である。仮分数の意味がとらえられているかどうかを問うために設定した。

［３］解説

（１）は、数直線上に表された小数をかく問題で、89.9％と高い正答率となっている。 昨年の数直線上に表された分数をよみとる問題の正答率 52.7％を大きく上回っており、十進数である小数の方が児童にとって理解が容易であることがわかる。

（２）「１を 6 こと 0.1 を 9 こをあわせた数」の正答率も 92.7％と高く、小数や十進位取り記数法の仕組みをきちんと理解できている児童が多いことがわかる。

（３）「$\frac{7}{11}$は、$\frac{1}{11}$を何個集めた数か」を問う問題も 96.2％と高い正答率であった。単位分数のいくつ分かで分数が表されていることはよく理解できている。

（４）$\frac{18}{5}$を帯分数で表す問題も 81.1％と満足のいく正答率であった。昨年の帯分数を仮分数にする問題の正答率 69.3％に比べてかなり正答率が高くなっている。実際の計算場面では帯分数と仮分数は相互に変換できる必要があるので、今後も双方向の変換がスムーズにできるように指導していく必要がある。

（５）の４つの中から仮分数を見つける問題の正答率は 52.8％と低かった。$\frac{5}{4}$が仮分数であることはわかっても、$\frac{8}{8}$を仮分数と見ることができなかったためである。「仮分数とは、分子が分母と等しいか、分子が分母より大きい分数」ということをしっかりとおさえたい。

大問３

［１］解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
12	3	(1)			①	1	6.4
					②	2	8.9
				○	③	3	77.8
					④	4	5.9
					上記以外の解答	9	0.1
					無解答	0	0.8
13		(2)			①	1	2.7
					②	2	10.5
					③	3	7.6
				○	④	4	78.3
					上記以外の解答	9	0.1
					無解答	0	0.8

［２］出題のねらい

大問３は、「数と計算」領域の「大きな数」の内容として、億の位までの範囲で出題した。

（１）は、「約十三億七百六十万人」の表し方を４つの選択肢から選ぶ問題である。十進位取り記数法を理解し、億の位まで表すことができるかどうかをとらえる問題として設定した。知識・理解を主たる観点としたため、数をかき表すのではなく選択する形式にした。

（２）は、億をこえる数の構成を理解しているかを問う問題である。十進位取り記数法を理解していれば容易に答えられるように、１つの数のみにしぼって、億の位までの数の相対的な大きさを問う問題として設定した。また、知識・理解を主たる観点として設定したため、選択肢の中から選ぶ形式にした。

［３］解説

（１）は、選択肢から選ぶため正答率は 77.8%となっている。億の位は正しく理解できているが、千万の位が空位になっているのでつまずく児童が多く見られた。日本の命数法では、「一・十・百・千」が繰り返しでてくるので、４桁ずつ区切って考えれば数をとらえやすくなることなどに目を向けられるようにしていくことが大切である。さらに、空位の扱い方についても繰り返し指導が必要である。

（２）「１億を 950 こ集めた数」を問う問題で、78.3%とやや高い正答率が得られた。大きな数の構成についての知識が概ね身についている児童が多いといってよい。誤答については、②の 9 億 5000 万や③の 95 億が若干見られた。正確に位を数えるために、４桁ずつ区切りを入れるようにすることが大切である。

大問４

［１］解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
14	4	(1)		○	860000　または　約860000	1	69.4
					900000	2	7.8
					850000	3	2.3
					857000	4	2.8
					上記以外の解答	9	13.9
					無解答	0	3.8
15		(2)			①	1	13.7
				○	②	2	59.2
					③	3	7.9
					④	4	16.8
					上記以外の解答	9	0.1
					無解答	0	2.3

［２］出題のねらい

大問４は、「数と計算」領域の「がい数と四捨五入」の内容をとりあげた。概数と四捨五入の内容は、４年生ではじめて学習する。この学年では、概数の意味を理解し、数を手際よくとらえたり処理したりできるようにするとともに、目的に応じて概数をもちいることができるようにすることをねらっている。また、その際、概数を用いることのよさ、すなわち、大きさが端的にわかり、物事の判断処理が容易になり、見通しをもって解決できることに気付くようにすることが大切である。

（１）は、四捨五入し、一万の位までの概数で表す問題である。主に表現・処理を観点として考え、位をとらえた上で四捨五入できるかみようと考えた。

（２）は、（１）とは逆で、四捨五入して上から２桁の概数で表された数字の範囲（数直線を参考に）から元の数字を導き出す問題である。四捨五入の意味に基づいて考えられるかどうかをみる問題として設定した。

［３］解説

（１）の正答率は、69.4％と昨年の正答率 80.0％に比べてとても低かったが、これは、昨年は、千の位と一桁小さい数であったためと考えられる。千の位の数「７」を四捨五入して「７」を「８」にするという誤答例が見られた。千の位を四捨五入したら万の位に繰り上がることが知識として理解されていなかった。どの位を四捨五入するのかを確認し、どの位が繰り上がるのかを指導することが大切である。

（２）の正答率は、59.2％と低かった。四捨五入は、概数を扱う場面に最も普通に用いられるものであり、その方法は、測定で端下の数を最も近い目盛りでよみとる考えによっている。この場合、上から２桁の概数で表す場合の整数の範囲は、66500 から 67499 である。数直線等を用いて概数の範囲について理解を深める学習が大切である。

大問５

［１］解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
16	5	(1)			①	1	7.9
					②	2	16.2
				○	③	3	52.7
					④	4	21.1
					上記以外の解答	9	0.3
					無解答	0	1.9
17		(2)		○	①	1	65.8
					②	2	13.9
					③	3	10.3
					④	4	8.2
					上記以外の解答	9	0.2
					無解答	0	1.6

［２］出題のねらい

大問５は、「数量関係」領域の「式と計算」の内容を取り上げた。４年生では、数量の関係を四則の混合した式や（　）を用いた式で表したりよんだりする力を伸ばすとともに、計算順序についてのきまりを理解し適切に用いられることをねらいとして学習を進めてきている。ここでは、数量の関係を四則の混合した式や（　）を用いた式で表したりよんだりする力をみることをねらいとしている。

（１）は、四則の混合した式や（　）を用いた式の計算順序についてのきまりを考慮し場面の数量の関係を式で表す問題である。表現・処理能力を主たる観点として出題した。

（２）は、式が表す数量の関係をよみとり、その関係に当てはまる問題文を選択する問題である。式に当てはまる具体的な場面やモデルをよみとるという数学的な考え方を主たる観点として出題した。

［３］解説

（１）の正答率は52.7％である。誤答が多岐に渡っていることから、四則が混合したり、（　）を用いたりするような数量の関係を式に表す力が十分に身についていないと考えられる。

（２）の正答率は65.8％である。（１）同様、誤答が多岐にわたっている。式をよみとる力が十分に身についていない児童が多いと考えられる。

ここでは、数量の関係を四則の混合した式や（　）を用いた式で表したりよんだりする力をみることをねらいとしている。大問１（５）（６）のような四則の混合した式や（　）を用いた式の計算処理能力を問う問題と比べて、正答率が低い。具体的な場面を図に表して考えたり、立式した根拠を場面や図をもとに説明するようにしたりする指導を大切にしていきたい。また、練り上げの活動で、ある児童がかいた図や式の意味を別の児童に考えさせて発表するようにしたり、それらの図や式の共通点を考えるようにしたりするなど、図や式をよみとる活動をより多く取り入れていきたい。

大問６

［１］解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
18	6				①	1	35.9
					②	2	10.8
				○	③	3	45.7
					④	4	5.1
					上記以外の解答	9	0.4
					無解答	0	2.1

［２］出題のねらい

大問６は、「数と計算」領域の「わり算」の内容として、問題解決の過程で除法の問題を図に表すことで内容を正しく理解しているかをみる問題として設定した。問題を解決していく過程で、問題をより把握しやすくするために図や線分図等を用いることは大切である。

［３］解説

大問６は、「ひもの長さが 72cm。これはリボンの長さの 4 倍」という場面でリボンの長さを□cm として表した正しい図を選ぶ問題であり、正答率は 45.7%ととても低いものであった。誤答例は、①のひもの長さ 72cm だけに着目し、リボンの長さとの関係を比較してとらえていないものが多く見られた。これは、文章問題の中の関係を把握せず、出てきた数字を図式化したからだと思われる。テープ図や線分図等を必要に応じて使い、計算の意味や問題場面を深く理解していくことが大切である。さらに、普段の学習の中で「もとになる量」や「比べられる量」等の言葉と問題場面を結びつけて考えていく場面を多く経験させることも必要である。

大問７

［１］解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
19	7	(1)			①	1	4.1
				○	②	2	44.0
					③	3	42.9
					④	4	3.2
					上記以外の解答	9	4.7
					無解答	0	1.1
20		(2)		○	(式)７×１０　または　７×１０＝７０ (答え)７０(㎠)	1	73.6
				○	(式)１０×７　または　１０×７＝７０ (答え)７０(㎠)	2	18.1
				○	式に「＝」だけある場合も許容とし，正解とする。 (式)7×10＝　または　10×7＝ (答え)７０(㎠)	3	0.9
				○	式に単位「cm」がついていても許容とし，正解とする。	4	1.1
					式を間違えている。	5	0.2
					式だけ合っていて，答えを間違えている。式の「＝70」の部分を間違えていても，式は合っているとみなし，この類型に入れる。	6	1.3
					上記以外の解答	9	2.7
					無解答	0	2.1

［２］出題のねらい

大問７は、「量と測定」領域の「面積」の内容を取り上げた。

（１）は、東京ドームの面積に合う単位を問う問題である。適切な単位や計器を選択できるという量感が身についているかをみることをねらいとしているので、知識・理解の観点とした。

（２）は、長方形の面積の求積である。公式に当てはめて処理する力をみることをねらいとしているので、表現・処理の観点とした。

［３］解説

（１）の正答率は44.0％である。基本単位（1cm²、1m²、1km²など）がどのくらいの大きさかについて、約束（1m²は一辺の長さが1mの正方形の広さ）をもとにした理解や、実感を伴った理解が十分でないと考えられる。長さ、かさ、重さなど、それぞれの量の学習において、基本となる単位の大きさを実際につくったりいくつも探させたりする活動や見当をつけてからはかる活動を大切にしていきたい。

（２）の正答率は 93.7％で、高い正答率である。長方形の面積の求積公式は「縦×横」とされているが、図を 90°回転させれば縦と横は逆になるので、７×10 も 10×７も正答である。数値が計算しやすいものであったため、正答率が高かったと考えられる。長方形の面積の求積公式は［1cm²］×［(縦×横)個分］の意味指導も大切にしていきたい。

大問８

［１］解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
21	8				①	1	10.8
					②	2	6.2
				○	③	3	69.6
					④	4	11.1
					上記以外の解答	9	0.1
					無解答	0	2.1

［２］出題のねらい

大問８は、提示された式から、複合図形の面積の求め方をよみとる問題である。数や式が何を表しているかをよみとる力をみることをねらいとしている。

［３］解説

正答率は69.6%である。式をよむ力が十分に身についていないと考えられる。

①を選んだ児童は、数も式もよみとれていないと考えられる。②を選んだ児童は、面積を分けてたしていることはよみとれている。しかし、数がどの部分の長さを表しているかはしっかりとよみとれていないと考えられる。④を選んだ児童は、式が３つあることから図を三分割したものを選べばよいと判断したのではないだろうか。8＋42の意味がよみとれていないと考えられる。

図を使って式の意味を説明する活動や、式をもとに図で表す活動を、これまで以上に大切にしていきたい。

大問９

［１］解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
22	9	(1)		○	75（度）	1	81.3
					105（度）	2	8.8
					85（度）	3	2.4
					115（度）	4	2.9
					上記以外の解答	9	3.5
					無解答	0	1.1
23		(2)		○	９（こ）	1	67.6
					８（こ）	2	12.9
					10（こ）	3	8.8
					上記以外の解答	9	8.2
					無解答	0	2.5
24		(3)		○	125（度）	1	54.8
					305（度）	2	0.3
					55（度）	3	2.6
					235（度）	4	0.2
					135（度）	5	0.9
					上記以外の解答	9	32.7
					無解答	0	8.6

［２］出題のねらい

大問９は、「量と測定」領域の「角度」について取り上げて出題した。４年生では角を回転の大きさを表す量としてとらえるようになる。そうした大きさを表す単位として「度（°）」が用いられることを知る。さらに、分度器を用いて角の大きさを測定したり、必要な角の大きさを作図する経験をしている。

（１）は、分度器を用いて角度を測定する問題で、表現・処理をみる問題として出題した。

（２）は、円の中心角が 360 度であることをもとにして解決する問題として設定した。

（３）は、三角形の外角を求める問題だが、直線は 180 度であることをもとにして解決することができる問題として設定した。

［３］解説

（１）は、分度器の 75 度をよみとる問題で、正答率は 81.3%であった。昨年度は 40 度の正答率が 92.9%、105 度の正答率が 81.3%であったことを考えるとやや予想を下回った結果となった。105 度という誤答が多かったことを考えると、分度器のどの数字をよむかがしっかり理解できていないことがわかる。つまり、０から角度が広がることの意識が足りないためだと思われる。測定の経験をできるだけ多く積ませていくことが必要ではないだろうか。

（２）は、「円形のケーキを 40 度になるように切ったら何個に分けられるか」という問

題で、正答率は 67.6%であった。円の中心角が 360 度であることがわかり、それを問題解決に利用することができなかったものと思われる。誤答例として、8 こや 10 こと答えている児童が多かったことは、円の中心角が 360 度であることが理解できていないと思われる。それらの学習内容を活用する力を育てていく必要がありそうだ。

（3）は、三角形の外角を求める問題で、54.8%と低い正答率であった。直線は 180 度であること、角度にも加法性があることの理解を深める必要がある。また、角度を意識した敷き詰めの活動などの体験を通した理解を図ることも考えられる。

大問１０

［１］解答類型別の出現率

問題番号 No	大問	中問	小問	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
25	10	(1)		○	い，お（順不同，完答）	1	69.3
					い	2	5.8
					お	3	0.8
					あ，お	4	1.6
					上記以外の解答	9	20.5
					無解答	0	2.0
26		(2)		○	８（まい）	1	65.5
					４（まい）	2	6.1
					６（まい）	3	6.0
					32（まい）	4	0.2
					上記以外の解答	9	17.8
					無解答	0	4.4
27		(3)			①	1	32.5
					②	2	12.9
					③	3	5.9
				○	④	4	41.4
					上記以外の解答	9	3.1
					無解答	0	4.2
28		(4)		○	略（３つの辺の長さが６cm，６cm，８cmの二等辺三角形）	1	78.2
				○	作図に使った線が消えていて，正しく作図できたかどうかは判断できないが，二等辺三角形は正しくかけている。	2	4.6
					上記以外の解答	9	13.5
					無解答	0	3.7

［２］出題のねらい

大問 10 は、「図形」領域の二等辺三角形と正三角形について出題した。４年生では、特に辺や角の相等関係といった構成要素に着目することを大切にしながら指導している。辺の長さの相等関係に着目して、二辺が等しい三角形を二等辺三角形ということや、三辺が等しい三角形を正三角形ということを約束する。

（１）は、二等辺三角形の約束をもとに図形を選ぶ知識・理解の問題である。

（２）は、正三角形の性質をもとに平行四辺形の中にいくつの正三角形を敷き詰めることができるかを考える問題である。

（３）は、折り紙を二つに折り、それをはさみで切って開いた図形の中から正三角形を約束をもとに選び出す力をみることとした。

（４）は二等辺三角形の作図で、表現・処理をみる問題である。

［３］解説

（１）は、二等辺三角形を選ぶ問題で、正答率は 69.3％である。まだ定着度はあまり高くないと言える。「二辺の長さが等しい三角形」という約束をおさえることや、構成要素である角や辺に着目する態度を育成することが必要である。

（２）は、敷き詰めの問題である。正答率は 65.5％であった。４枚、６枚という誤答がそれぞれ 6％ずつあったことから、図の中にかき入れるなどして見通しをもつことができていないことがわかる。日頃より図を使って考えるなどの指導が必要である。

（３）は、折った紙を広げたときの形を考える問題である。正答率は 41.4％であり、全問題の中で最も低い正答率であった。正三角形の約束が理解されていないことや、念頭操作をする力が弱いことがわかる。操作活動を授業の中で多く取り入れ、念頭でも考えられるような指導を心がけたい。

（４）は、二等辺三角形を作図する問題で、正答率は 82.8％であった。前回は正三角形の作図で正答率は 92.6％であった。正答率が下がったのは、許容範囲を狭めたことによるものと思われる。概ね満足な結果である。作図の指導が適切に行われていると言える。

大問１１

［１］解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
29	11	(1)			①	1	3.3
					②	2	1.0
					③	3	27.7
				○	④	4	64.4
					上記以外の解答	9	0.1
					無解答	0	3.4
30		(2)		○	３（こ）	1	86.3
					24（こ）	2	0.0
					６（こ）	3	0.5
					上記以外の解答	9	9.2
					無解答	0	4.0

［２］出題のねらい

大問 11 は、「図形」領域の円及び球について取り上げて出題した。円の半径、球の直径についての理解をみる問題である。４年生では、半径及び直径の長さ、中心との関係について学習する。

（１）は、円の半径はどこかを問う、知識・理解を観点とした問題である。

（２）は、箱の中に球が何個入るかを問うことで、球の直径をもとに解決できるかをみる問題となっている。

［３］解説

（１）は、円の半径の約束についての理解をみる問題で、正答率は 64.4%であった。③の直径を選ぶ誤答が多かったことから、直径や半径の約束があいまいなことがわかる。

（２）は、球の直径を理解しているかどうかをみる問題である。正答率は 86.3%と満足できる結果となった。教科書で似た問題を経験していたこと、出題された数値から予測が立てやすかったことなどが高い正答率につながったものと思われる。

大問１２

［１］解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
31	12	(1)		○	17（度）	1	89.1
					12（度）	2	0.4
					19（度）	3	1.4
					上記以外の解答	9	6.2
					無解答	0	2.9
32		(2)			①	1	2.2
				○	②	2	76.8
					③	3	12.9
					④	4	4.8
					上記以外の解答	9	0.3
					無解答	0	3.0

［２］出題のねらい

大問 12 は、「数量関係」領域から「折れ線グラフ」を取り上げた。一年間の気温の変わり方を表した折れ線グラフから、グラフのよみ方や変化の仕方のよみとりに関する問題を出題した。

（1）は、５月の気温を折れ線グラフからよみとれるかをみる問題とした。

（2）は、気温の増加をグラフの傾きと結びつけてとらえられるかをみる問題とした。

［３］解説

（1）は、正答率が 89.1%と高く、折れ線グラフに表された数量のよみとりは、十分理解できていることがわかる。

（2）は、正答率が 76.8%である。前回の同様の問題が 62.8%と低かったのに比べ、10 ポイント以上あがっている。この結果は、変化の仕方に関する理解がすすんでいることに加え、選択肢があったことも影響していると思われる。一方、グラフの最高値あたりを選んだ誤答が 12.9%と多く、「上がり方が一番大きい」と「最高気温」を混同している児童がかなりいることがわかる。

今後も、折れ線グラフのよみとりだけでなく、グラフの傾きと変化の仕方との関連についても理解できるように指導・支援していくことが大切である。

大問１３

［１］解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
33	13	(1)		○	2（人）	1	79.2
					7（人）	2	2.1
					3（人）	3	1.7
					24（人）	4	3.7
					22（人）	5	5.6
					5（人）	6	0.6
					上記以外の解答	9	3.3
					無解答	0	3.7
34		(2)		○	34（人）	1	84.3
					68（人）	2	6.9
					25（人）	3	0.0
					102（人）	4	0.0
					上記以外の解答	9	4.8
					無解答	0	3.9

［２］出題のねらい

大問 13 は、「数量関係」領域から「二次元表」を取り上げた。４年生では、資料を二つの観点から分類整理し、折れ線グラフや二次元表に表す学習を行う。ここでは二次元表のよみ方やかき方に関する問題を出題した。

（１）は、条件に当てはまる数値を二次元表からよみとる問題である。

（２）は、二次元表の各欄に表された数値の意味を理解し、全員の人数を求めるために必要な欄を選べるかをみる問題である。

［３］解説

二次元表のよみとりは比較的難しいであろうと思われたが、（１）（２）の正答率はそれぞれ 79.2%、84.3%であり、昨年度を上回る結果となった。今後も二つの観点の組み合わせを考え、各欄の数値の意味などについて理解できるように指導していくことが大切である。

二次元表については、他教科などでも目にする機会が多いためか、概ね理解が図られていると考える。指導にあたっては、単なる表の見方やかき方を定着させるだけでなく、物事を分類整理し、論理的に考える力を伸ばすようにすることが大切である。

大問１４

［１］解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
35	14			○	９（こ）	１	77.5
					７（こ）	２	2.8
					８（こ）	３	3.0
					上記以外の解答	９	11.5
					無解答	０	5.1

［２］出題のねらい

大問 14 は、「数量関係」領域の「変わり方」を取り上げた。マッチ棒の本数と並んでいる正方形の数に着目し、伴って変わる２つの数量の関係をとらえることができるかをみる問題である。問題を把握しやすくするために、途中までの変化の様子を表で表し、その先に入る値を求める形式とした。主たる観点は、数学的な考え方である。

［３］解説

正答率は 77.5%であった。途中まで値が記入された表が載っていたために、「表の続きを考えればよい」などの方法の見通しをもって取り組んだと考えられる。そのとき、表を横にみて、どこでも正方形が１つ増えるとマッチ棒の数が３本増えるようだと類推して考えたであろう。きまりをみつけようとする態度とともに考え方も大切にしていきたい。

また、表を縦にみて、「マッチ棒の数＝（正方形の数）×3＋1」など、２つの量の関係をとらえ関数的な見方をして考えることも意識させたい。

（５）今後の指導にあたって

○数と計算【大問１（１）～（４）・２・３・４・６】

「数と計算」領域での正答率は75%を上回っており、概ね満足できる結果であった。特に、計算については高い正答率であった。しかし、概数の問題や除法の問題を図に表す問題は正答率が低く、やや不満足の結果であった。つまり、計算はできるが、その意味理解があいまいである、ということが言えるのではないかと考える。

概数を用いる場合、四捨五入は最も普通に用いられるものであるが、数字だけの処理にならないように、日頃から数直線などを用いて具体的に理解できるようにしたい。

また、わり算などの演算は、単に計算ができればよいというのではなく、問題を図に表すなどモデル化を通して演算の意味を明確にしていくことが望まれる。

○量と測定【大問７・８・９】

「量と測定」領域での正答率は70%を下回り、昨年度より10%以上下がった。これは、考え方を問う問題を多くしたためと思われる。面積を求めたり、分度器の角度をよみとったりなどの測定の仕方は理解できているが、適切な面積の単位や角の性質などの理解や活用ができていないことがわかった。

面積を広がりのある量としてとらえ、面積の単位（$1cm^2$）は長さの単位（1cm）から誘導されたものであることにも着目したい。また、角の大きさを回転の大きさとしてとらえ、測定の意味や単位のいくつ分にあたるのかを考えるなど、具体的な操作を通しながら量感を養っていくことが大切である。

○図形【大問10・11】

「図形」領域での正答率は70%を下回り、昨年度より5%程度下がった。これは、作図において許容範囲を昨年度に比べ半分に狭めたため、正答率が10%近く下がったことが考えられる。また、図形の約束（定義）がきちんと理解されていなかったり、図式化して考えていくことが不十分であったりすることも原因と考えられる。

基本的な平面図形については、観察や構成などの活動を通して図形の約束（定義）や性質の理解を深めていくことが大切である。その意味をしっかり確かめながら具体的な操作活動を十分に行っておけば、頭の中で考える念頭操作においてもきちんとイメージすることができるようになるであろう。

○数量関係【大問１(５)(６)・５・12・13・14】

「数量関係」領域の正答率は 75%を上回っており、概ね満足できる結果であった。折れ線グラフや二次元表については概ね理解できている。しかし、四則の混合した式や（　）を用いた式について正しく計算をすることはできているが、問題文を式化したり、指定された式になる問題文を選択したりすることが難しかったようだ。

数量の関係を式に表すことは、とても抽象的な作業である。いろいろな場面や問題を式で表したり、式から場面や一般的な関係をよんだりすることを日頃から行っていくことが大切である。

◎全体を通して

学習状況を評価する際は、「算数への関心・意欲・態度」「数学的な考え方」「数量や図形についての表現・処理」「数量や図形についての知識・理解」の４観点に着目する必要がある。しかし、その中の「関心・意欲・態度」や「数学的な考え方」については、子どもが問題解決をしたり、算数的活動をしたりする学習の過程において、その良さが現れることが多い。したがってペーパーテストではみることが難しいと考え、はじめから「関心・意欲・態度」は評価の観点としては省いている。また、「数学的な考え方」も十分評価できるとは言えないことを念頭に置かなければならない。学習の過程と結果の両方を評価していく必要がある。

なお、本調査の実施時期は、前回が 11 月であるのに対し今回は 5 月であった。この間に学習内容の習熟、定着がなされるだろうことや、逆に学習内容があいまいになることなどを考え、実施時期のずれが結果にどう影響するか懸念されたが、実際はほとんど影響がなかったようだ。実施時期が定着する今後の結果を見守っていきたい。

３．生活や学習についてのアンケート

調査の概要

１　調査の目的

川崎市の公立小学校に在籍する児童の生活や学習についての意識や実態を把握することにより、各学校における指導方法や授業改善等に資するとともに、本市学校教育全体の充実に向けた基礎資料として活用する。

２　調査の設計

（１）調査実施校及び対象者

市内公立小学校第５学年に在籍する全児童　　＊調査当日の欠席者を除く

（２）調査校数及び回答者数

学校数：114 校　　回答者数：10,557 名

（３）調査実施期日

平成 18 年５月 12 日（金）に川崎市学習状況調査の一環として、各教科の調査後に実施

（４）調査方法

記名の質問紙法調査による

（５）調査内容及び設問数

児童の生活と学習に関する意識と実態についての調査　44 問

（６）設問の主な観点及び視点

	観　　点	視　　点
1	学校生活に対する意識	楽しさ
2	学習全般に対する意識	好感度、必要性、理由、相談相手
3	各教科等に対する意識	好感度、理解度、有用感
4	家庭学習の実態	学習時間、学習内容、通塾
5	家庭生活の実態	睡眠時間、朝食の摂取、学習の準備、 テレビ・ビデオ・ゲームの視聴・実施時間 １ヶ月の読書量
6	各教科等に対する意識・実態	学習内容・方法に対する好感度 日常生活への活用や関連　　等

３　調査結果の集計・分析に当たっての留意事項

（１）単純集計及び分析

①２の（６）にある「設問の観点」ごとに項立てを行い、分析を行った。

②設問ごとに集計結果をグラフで表し、考察を加えた。

③一部の設問では前年度の結果を併記して、経年比較分析を行った。

（２）クロス集計及び分析

①いくつかの設問については、クロス集計という手法を用いて分析した。これは、設問Ａでの選択肢ごとに設問Ｂの回答を集計することで、設問Ａでの回答選択の違いを設問Ｂで説明する方法である。このことにより、設問Ａと設問Ｂの二つの設問の間の関連や相関関係等を分析した。なお、クロス集計では、集計の都合上無回答者を除いて集計した。

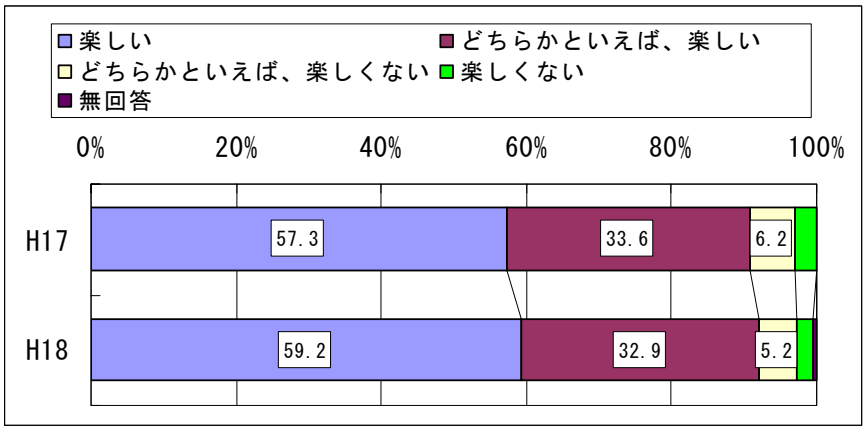
（３）各グラフには、見やすさを考慮して調査結果の割合の数値を記入しきれていないものがある。単純集計については、「資料　調査結果集計表」の該当設問の数値でご確認願いたい。

調査結果と分析

単純集計

１　学校生活に対する意識

（１）学校生活の楽しさ【問１】

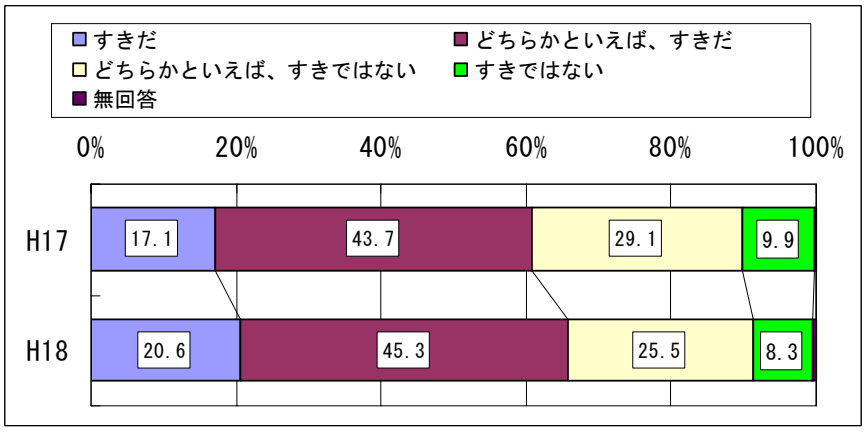


○59.2%の児童が、学校生活が「楽しい」と回答しており、「どちらかといえば、楽しい」を合わせると 92.1%となり、９割を超える。

○17 年度に比べ、「楽しい」という回答が 1.9 ポイント、「どちらかといえば、楽しい」を合わせた回答が 1.2 ポイント増加している。

２　学習全般に対する意識

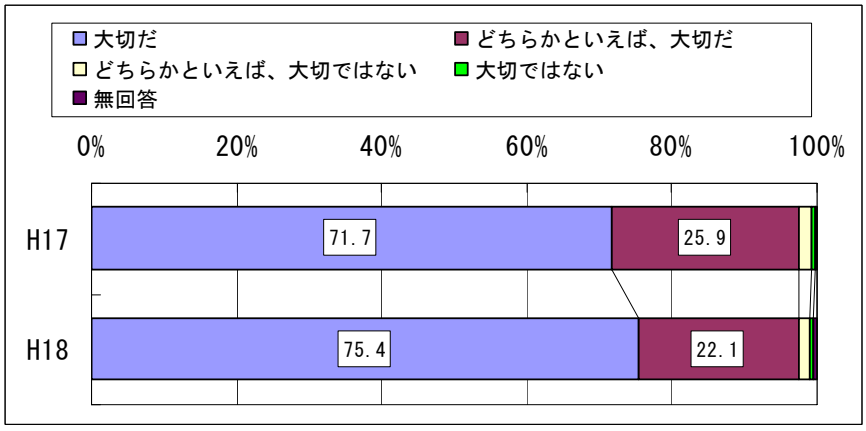
（１）好感度【問２】



○20.6%の児童が、勉強が「好きだ」と回答しており、「どちらかといえば、好きだ」を合わせると 65.9%である。

○17 年度に比べ、「好きだ」という回答が 3.5 ポイント、「どちらかといえば、好きだ」を合わせた回答が 5.1 ポイント増加している。

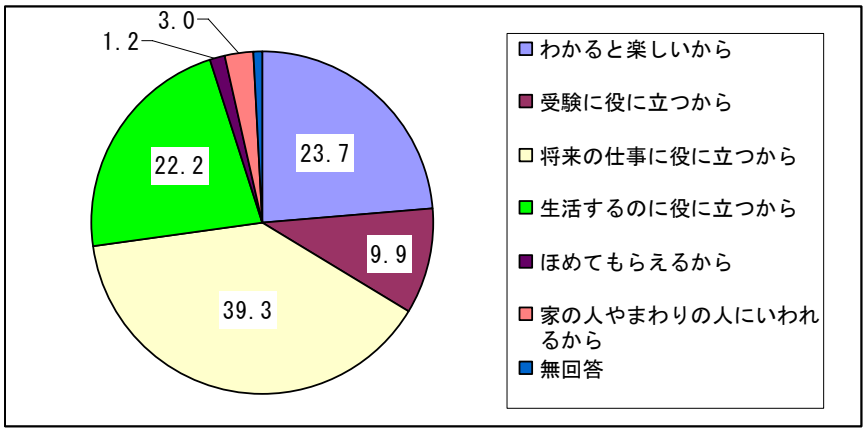
（２）必要性【問３】



○75.4%の児童が、勉強が「大切だ」と回答しており、「どちらかといえば、大切だ」を合わせると 97.5%である。

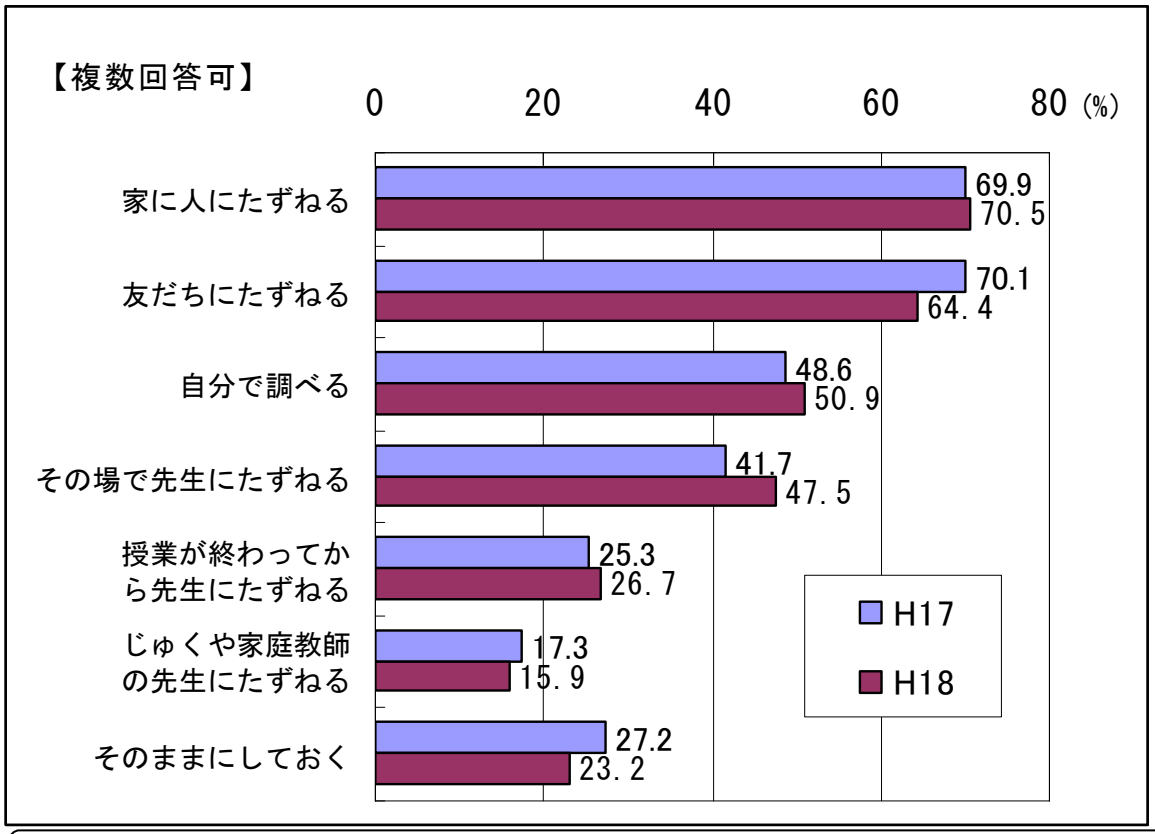
○17 年度に比べ、勉強が「大切だ」という回答が 3.7 ポイント増加している。

（３）理由【問４】



○勉強する一番の理由として「将来の仕事に役に立つから」を挙げている児童が39.3%で最も多く、ほぼ４割である。
○「わかると楽しいから」（23.7%）、「生活するのに役に立つから」（22.2%）という回答も比較的多い。

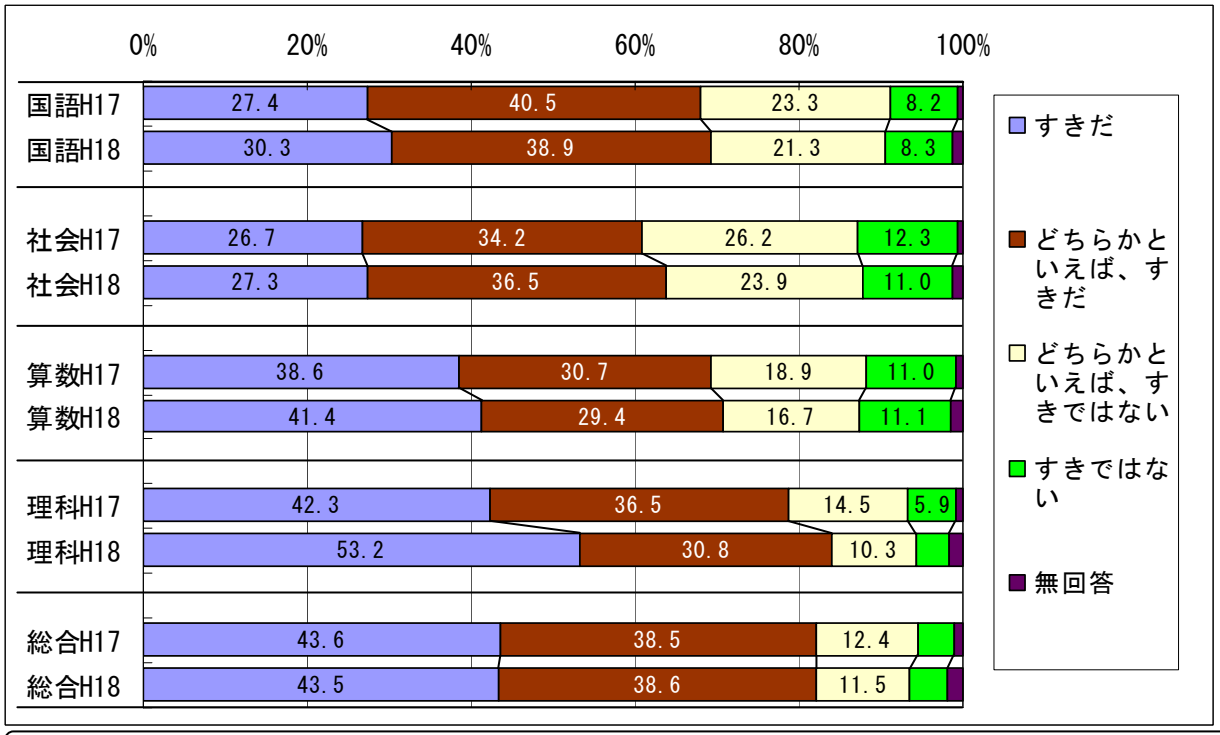
（４）相談相手【問 19】



○「授業の中でわからないことがあったときに相談する相手」として、「家の人」を挙げている児童が 70.5%と最も多く、「友だち」の 64.4%が続いている。
○「自分で調べる」児童は 50.9%と、ほぼ半数である。
○「学校の先生」にたずねる児童は、「家の人」や「友だち」にたずねる児童に比べて少ない。
○「そのままにしておく」と回答した児童は 23.2%であり、17 年度の 27.2%に比べて、4.0 ポイント減少している。

３　各教科等に対する意識

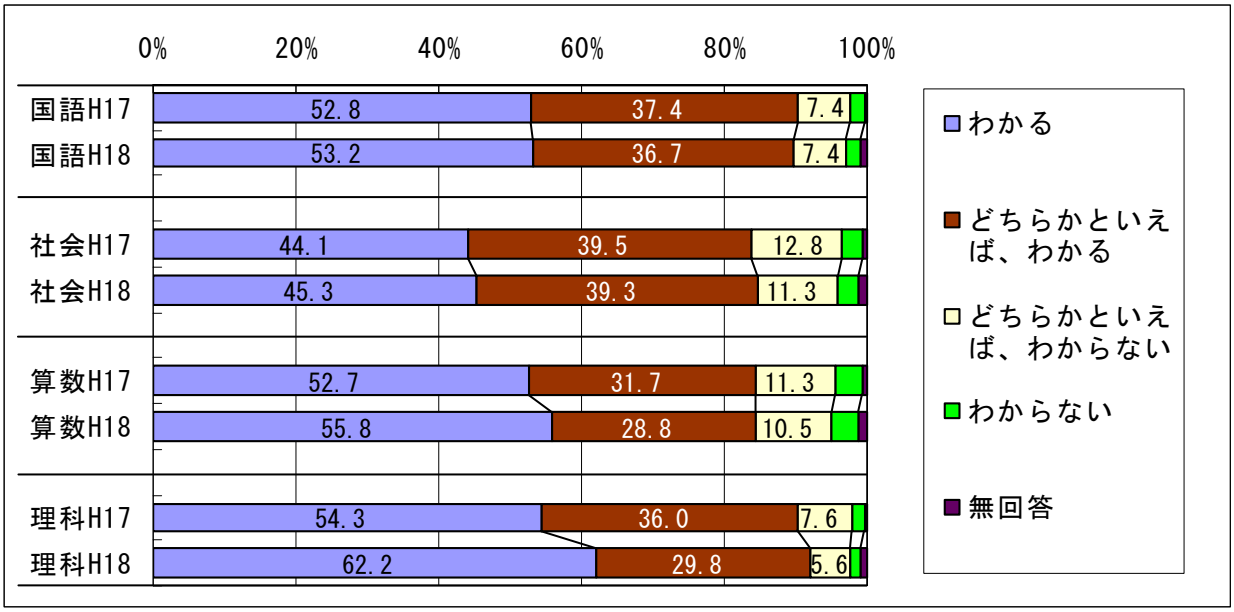
（１）好感度【問５～９】



○好感度（「すきだ」と「どちらかといえば、すきだ」を合わせた割合）が最も高いのは、「理科」で 84.0%、続いて「総合的な学習の時間」（82.1%）、「算数」（70.8%）、「国語」（69.2%）、「社会」（63.8%）の順である。

○17 年度に比べ、「総合的な学習の時間」の好感度は同じであるが、他の教科はすべて上回っている。増加の幅が最も大きいのは、「理科」の 5.2 ポイントである。

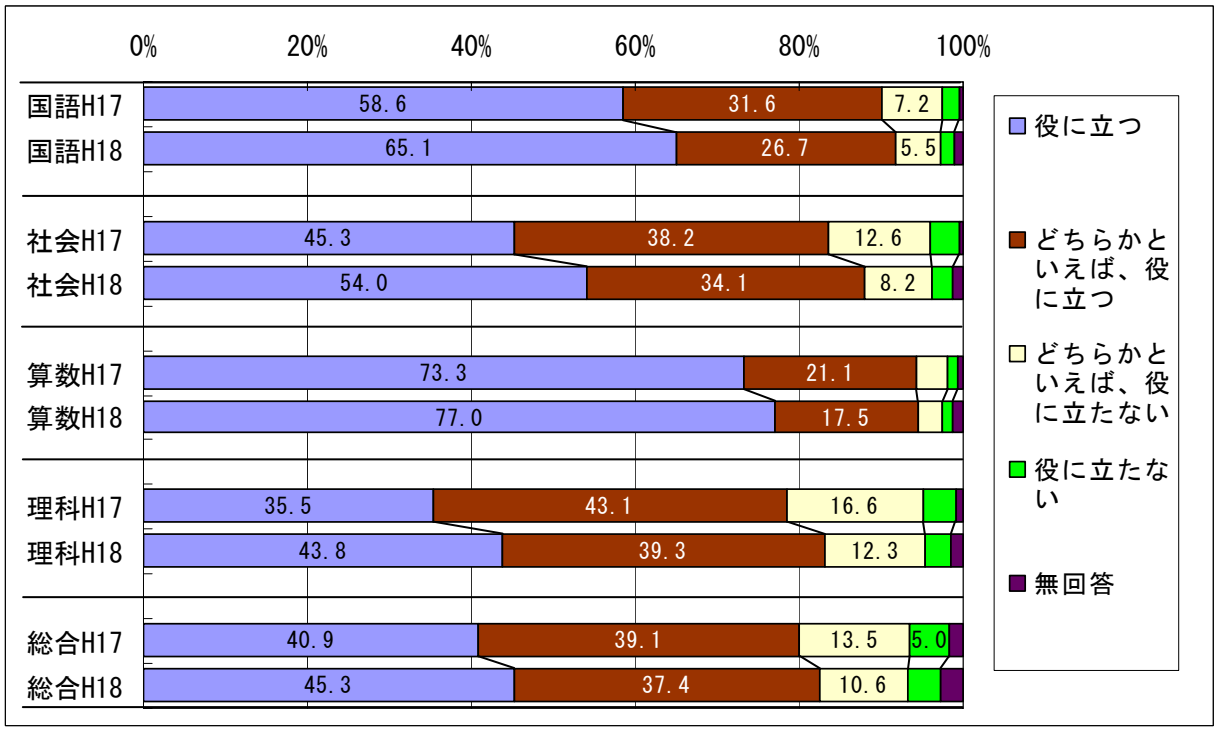
（２）理解度【問 10～13】



○授業が「わかる」という回答が最も多いのが「理科」の 62.2%であり、続いて「算数」「国語」「社会」の順である。「どちらかといえば、わかる」を合わせると、「理科」が 92.0%で最も多く、次に「国語」が 89.9%であり、「算数」と「社会」が 84.6%と同じ割合で続いている。

○17 年度に比べ、すべての教科で「わかる」という回答が上回っている。増加の幅が最も大きいのは、「理科」の 7.9 ポイント、次に「算数」の 3.1 ポイントである。

（３）有用感【問 14～18】

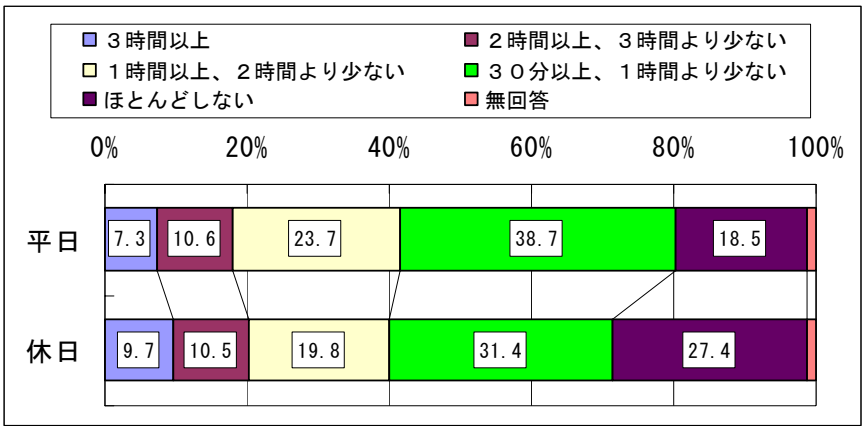


○学習に対する有用感（「役に立つ」と「どちらかといえば、役に立つ」を合わせた割合）が最も高いのは、「算数」で 94.5%、次に「国語」(91.8%)、「社会」(88.1%) であり、「理科」(83.1%) と「総合的な学習の時間」(82.7%) が、ほぼ同じ割合で続いている。

○17 年度に比べ、すべてにおいて有用感が上回っており、中でも「社会」(4.6 ポイント)、理科 (4.5 ポイント) の増加の幅が大きい。

４　家庭学習の実態

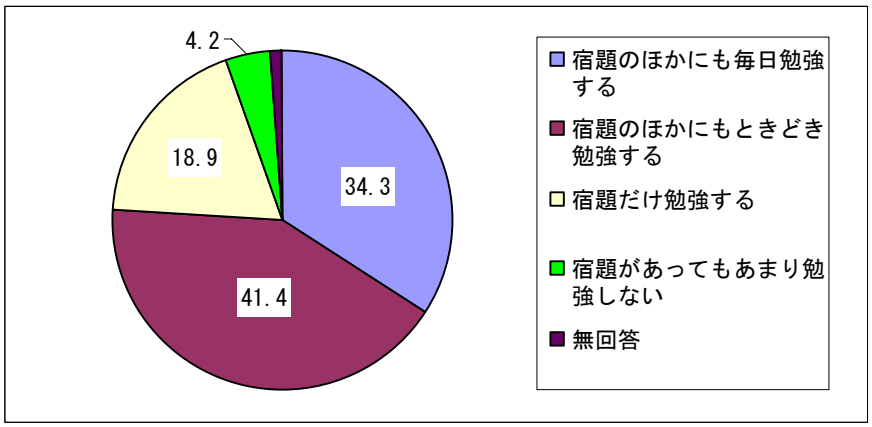
（１）学習時間【問 20～21】



○平日、休日とも「３０分以上、１時間より少ない」が最も多く（平日：38.7%、休日：31.4%）、「１時間以上、２時間より少ない」を合わせると、平日では６割、休日では５割を超える。

○「ほとんどしない」という回答は、平日は 18.5%、休日は 27.4%であり、休日の方が勉強しない児童が多い。一方、「３時間以上」と回答した比較的勉強時間が長い児童も、休日の方がわずかではあるが多い。

（２）学習内容【問 22】



○「宿題のほかにもときどき勉強する」が 41.4%で最も多く、「宿題のほかにも毎日勉強する」が 34.3%で続いている。

○「宿題があってもあまり勉強しない」と回答した児童は 4.2%である。

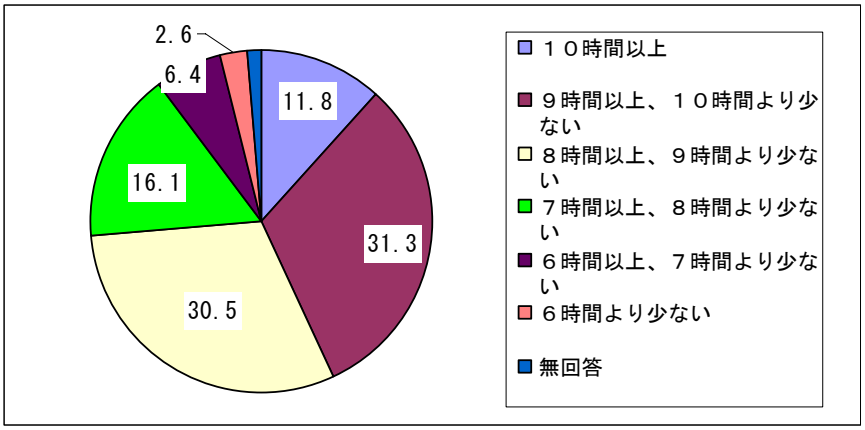
（３）通塾【問 23】

	通っている	通っていない	無回答
H17	52.3	47.1	0.7
H18	52.9	45.5	1.6

○学習塾に通っている児童は 52.9%と半数を超えており、17 年度（52.3%）とほぼ同じ割合である。

５　家庭生活の実態

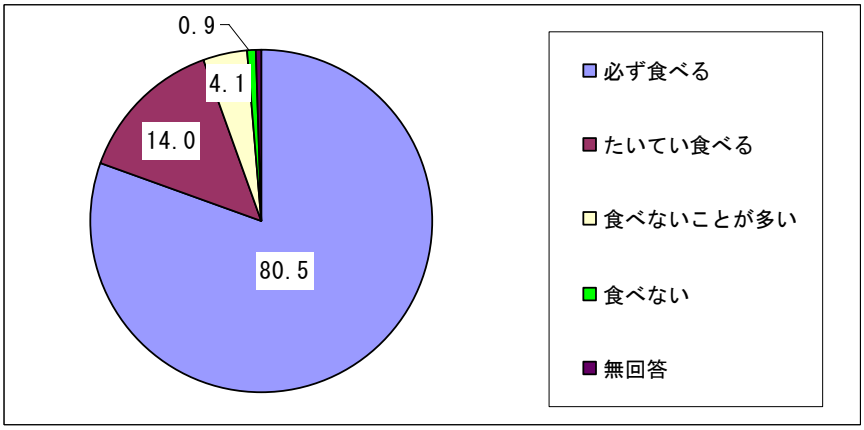
（１）睡眠時間【問 24】



○「９時間以上、10 時間より少ない」(31.3%)、「８時間以上、９時間より少ない」（30.5%）という回答が多く、ほぼ６割の児童の睡眠時間が「８～10 時間」の間である。

○７時間未満の睡眠時間の児童は 9.0%と、１割以下である。

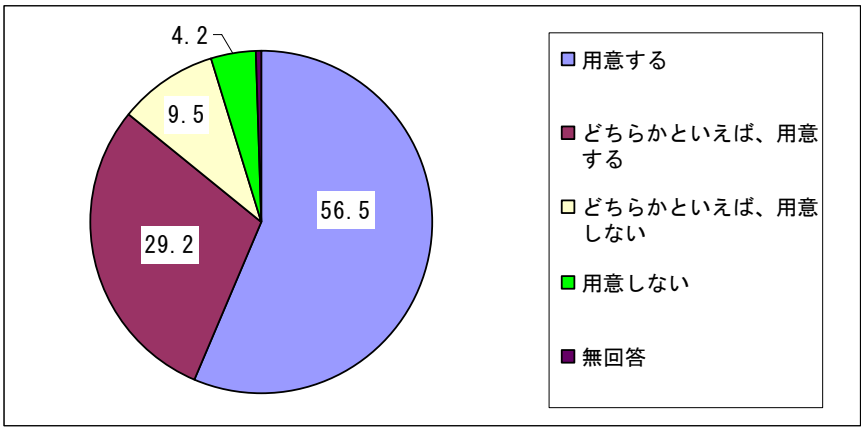
（２）朝食の摂取【問 25】



○80.5%と、８割以上の児童が「必ず食べる」と回答しており、「たいてい食べる」という回答を合わせると、94.5%である。

○「食べない」と回答した児童は 0.9%と、1%以下である。

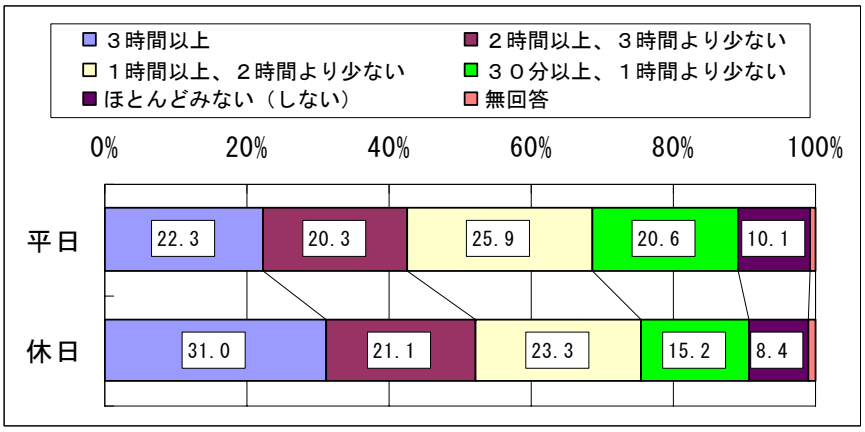
（３）学習の準備【問 26】



○56.5%の児童が「学校にもっていくものを前日に用意する」と回答しており、「どちらかといえば、用意する」を合わせると、85.7%である。

○「用意しない」と回答した児童は 4.2%である。

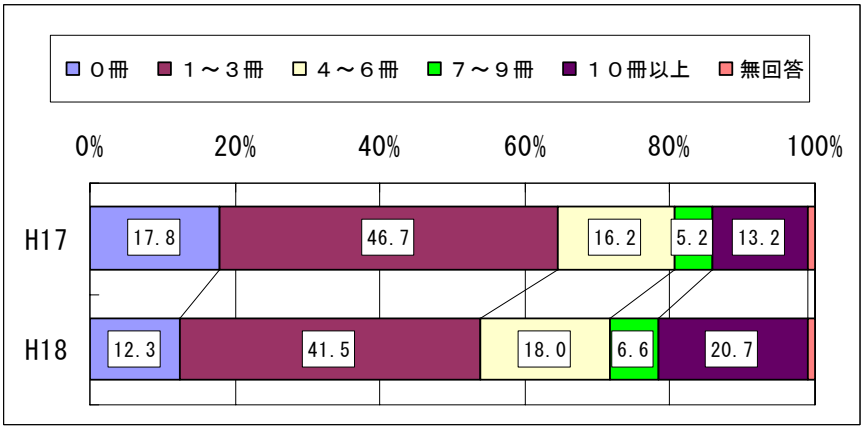
（４）テレビ・ビデオ・ゲームの視聴・実施時間【問 27～28】



○平日と休日を比べると、休日の視聴・実施時間の方が長い傾向がある

○視聴・実施時間が「１時間以上」の回答の合計は、平日：68.5%、休日：75.4%である。その中でも「３時間以上」は、平日：22.3%、休日：31.0%である。

（５）１ヶ月の読書量【問 29】



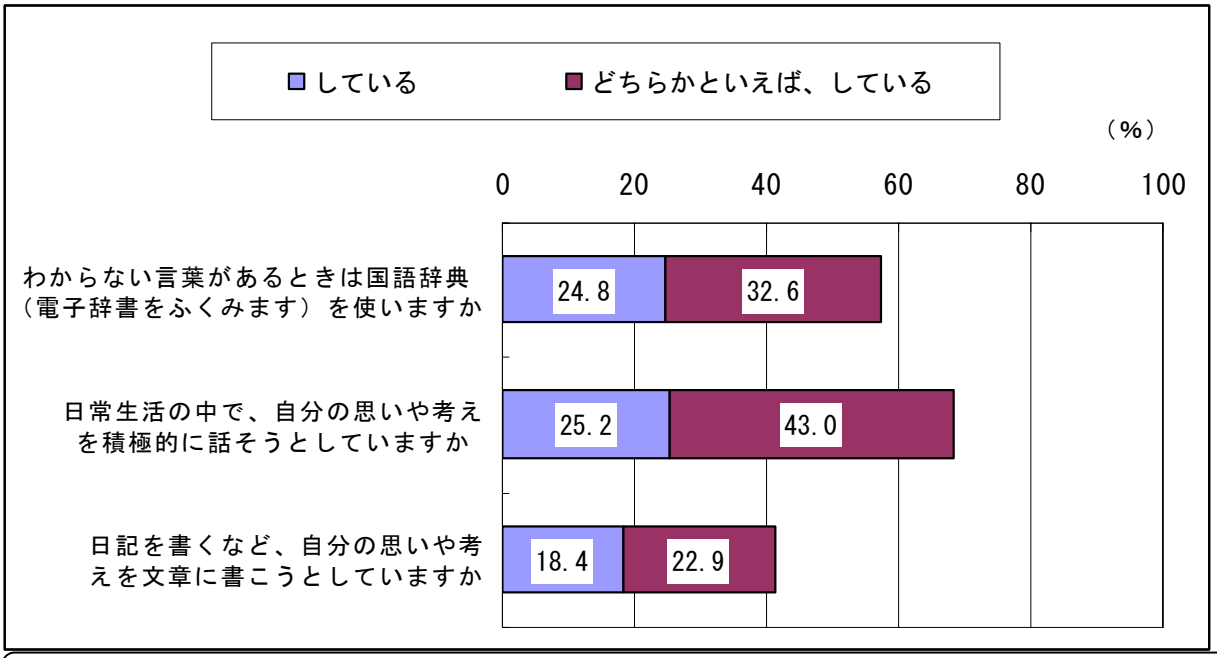
	平均冊数
H17	4.0 冊
H18	5.3 冊

○「１～３冊」が 41.5%で最も多く、「10 冊以上」が 20.7%で続いている。また、１冊も読まない児童は 12.3%である。

○17 年度に比べ、「０冊」が 5.5 ポイント減少、「10 冊以上」が 7.5 ポイント増加しており、平均冊数も 4.0 冊から 1.3 冊増加し、5.3 冊となっている。

６　各教科等に対する意識・実態

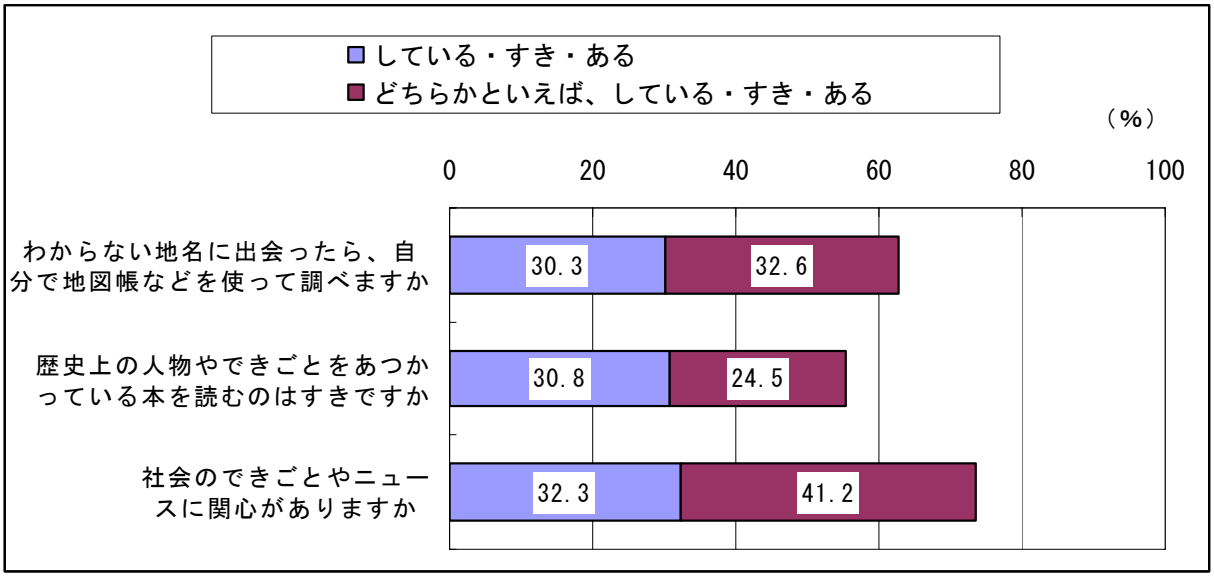
（１）国語【問 30～32】



○わからない言葉があるとき国語辞典を使う児童は、「どちらかといえば」を含めると 57.4%と、ほぼ６割である。

○「自分の思いや考え」を積極的に話そうとしている児童、文章に書こうとしている児童は、「どちらかといえば」を含めると、それぞれ 68.2%、41.3%である。「書くこと」よりも「話すこと」で自分の思いや考えを伝えようとしている児童が多い。

（２）社会【問 33～35】

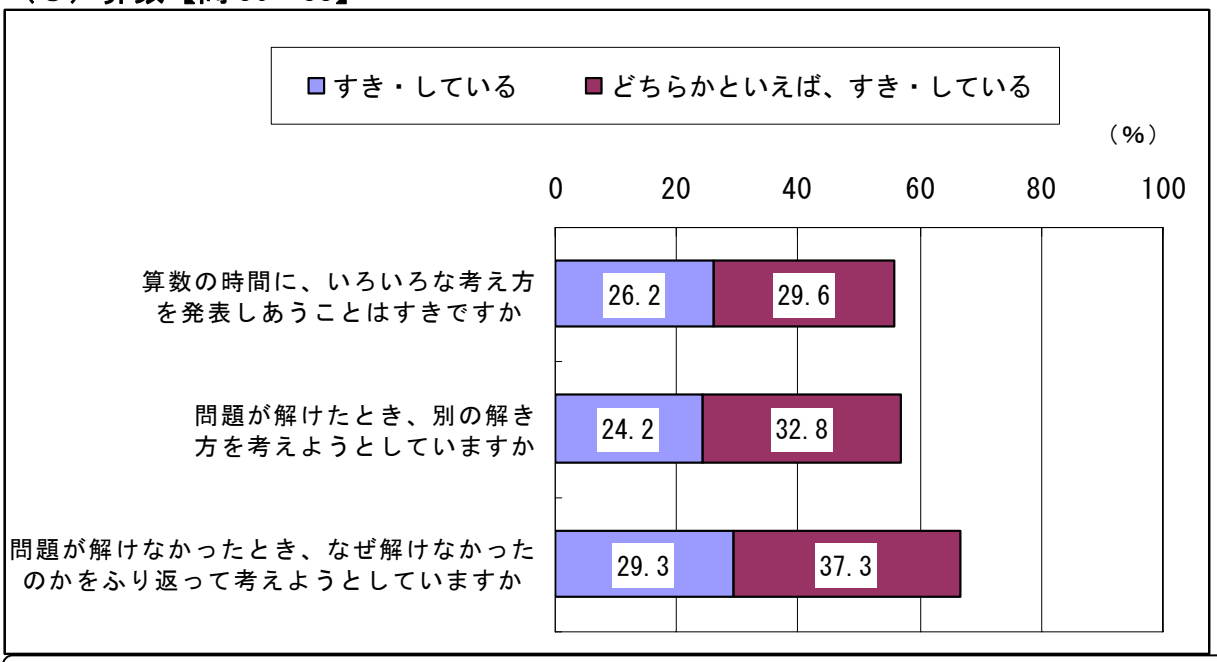


○自分で地図帳等を使って地名を調べる児童は、「どちらかといえば」を含めると 62.9%と、６割を超える。

○歴史に関する本を読むことが好きな児童は、「どちらかといえば」を含めると 55.3%である。

○社会事象やニュースに関心がある児童は多く、「どちからといえば」を含めると、73.5%と７割を超える。

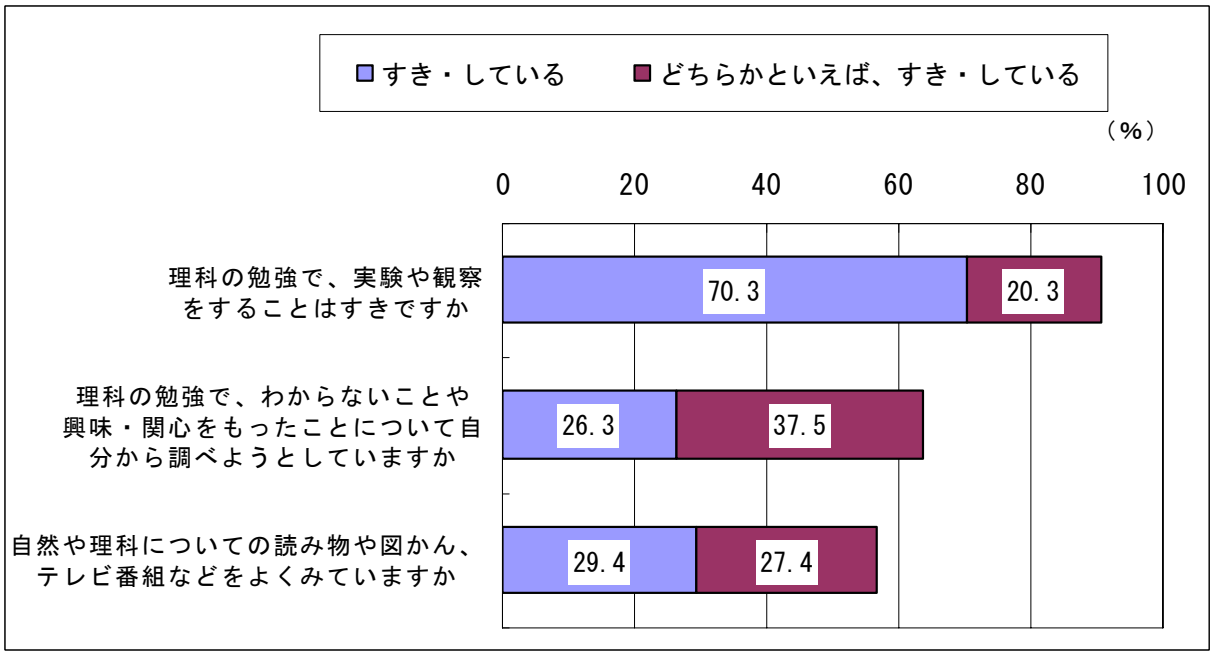
（３）算数【問 36～38】



○いろいろな考え方を発表し合うことが好きな児童は、「どちらかといえば」を含めると 55.8%である。

○問題を解けたときに別の解き方を考えようとしている児童、解けなかったときにその理由を考えようとしている児童は、「どちらかといえば」を含めると、それぞれ 57.0%、66.6%である。

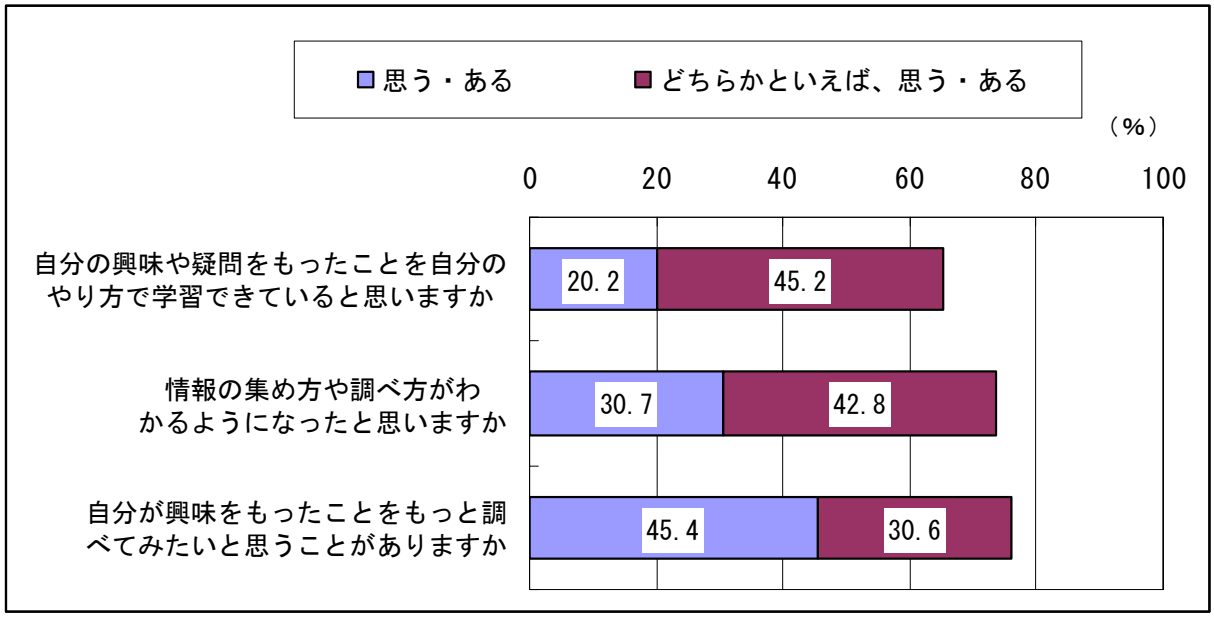
（４）理科【問 39～41】



○理科の実験や観察の授業が好きな児童が多く、「すき」が 70.3%、「どちらかといえば、すき」が 20.3%であり、合わせると 90.6%と９割を超える。

○わからないことや興味・関心をもったことを自分から調べようとする児童、自然・理科に関する読み物や図鑑、テレビ番組などを見ている児童は、「どちらかといえば」を含めると、それぞれ 63.8%、56.8%である。

（５）総合的な学習の時間【問 42～44】

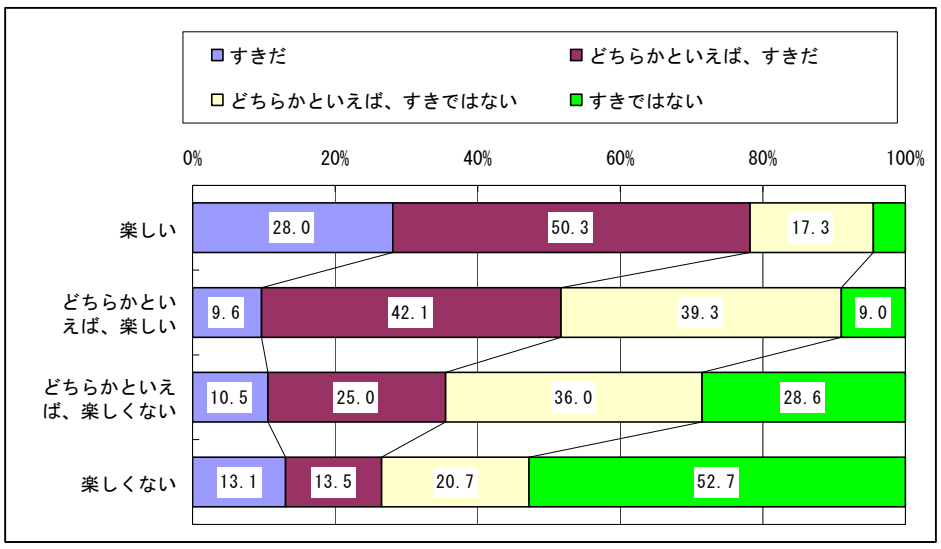


○総合的な学習の時間の中で、興味や関心をもったことを自分のやり方で学習できていると思っている児童、情報の集め方や調べ方がわかるようになったと思っている児童は、「どちらかといえば」を含めると、それぞれ 65.4%、73.5%である。

○興味をもったことについてもっと調べてみたいという気持ちになったと思っている児童は多く、「どちらかといえば」を含めると 76.0%である。

クロス集計

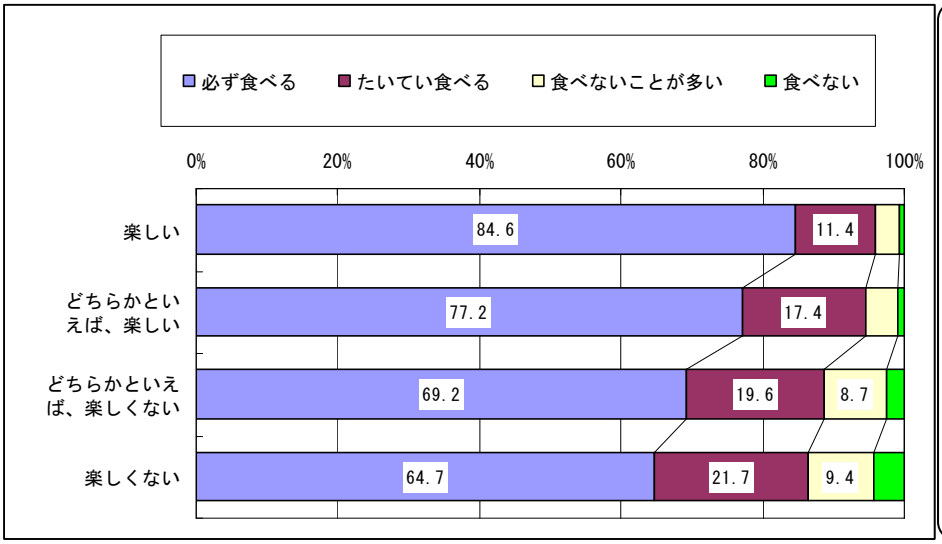
１　学校生活の楽しさ【問１】×学習に対する好感度【問２】



○学校生活が楽しい児童ほど、学習に対する好感度が高い傾向がある。

○勉強が「好きではない」という回答は、学校が「どちらかといえば、楽しくない」では 28.6%、さらに、「楽しくない」では 52.7%と、半数を超える。

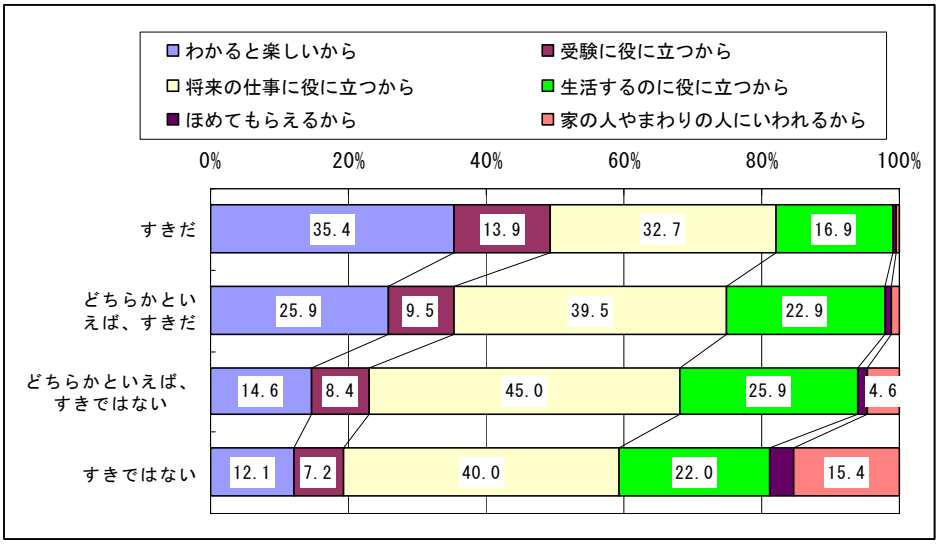
２　学校生活の楽しさ【問１】×朝食の摂取【問 25】



○学校生活が楽しい児童ほど、朝食の摂取状況が良好な状況にある。

○学校が「楽しくない」と回答した児童では、「必ず食べる」が 64.7%に減少する一方、「食べないことが多い」と「食べない」という回答を合わせると 13.6%に増加している。

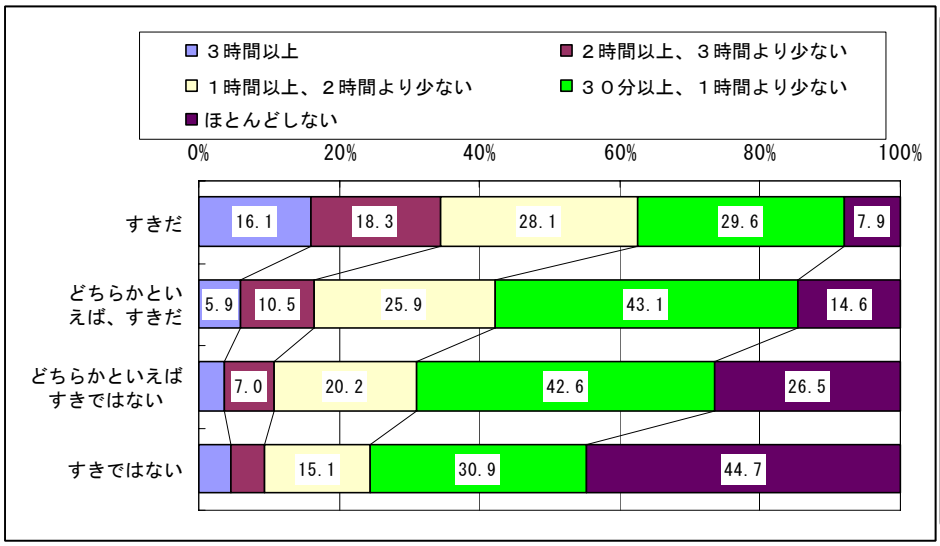
３　学習に対する好感度【問２】×勉強する理由【問４】



○学習に対する好感度にかかわらず、勉強する理由として最も多く挙げられているのは、「将来の仕事に役に立つから」である。

○好感度が高い児童ほど「わかると楽しいから」を、低い児童ほど「家の人やまわりの人にいわれるから」を挙げている割合が高い。

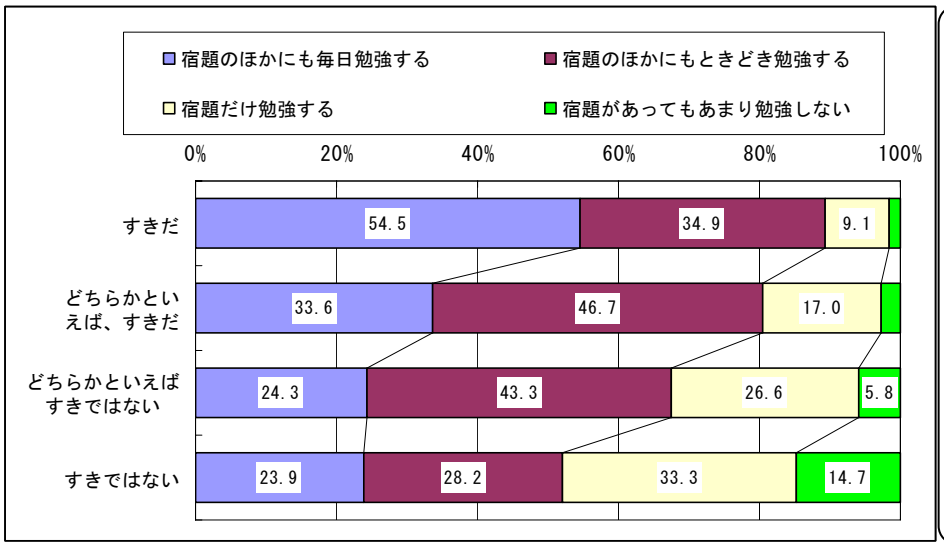
４　学習に対する好感度【問２】×家庭学習時間（平日）【問 20】



○学習に対する好感度が高い児童ほど、平日の家庭学習時間が長い傾向がある。

○勉強が「すきではない」と回答した児童の 44.7%が「ほとんどしない」、30.9%が「30 分以上、１時間より少ない」と回答している。

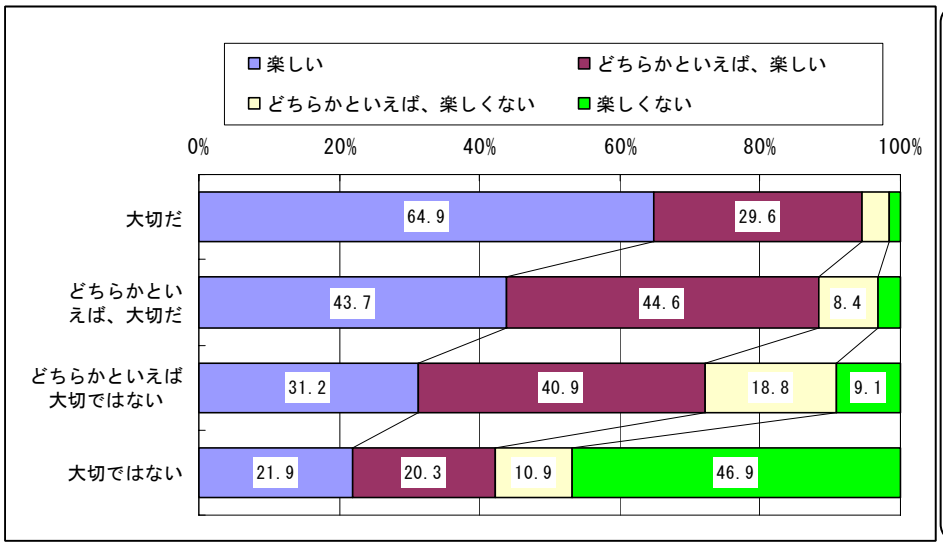
５　学習に対する好感度【問２】×家庭学習の内容【問 22】



○勉強が「すきだ」と回答した児童の 54.5%は、「宿題のほかにも毎日勉強する」と回答している。

○学習に対する好感度が低い児童ほど、「宿題だけ勉強する」と「宿題があってもあまり勉強しない」の回答割合が高くなる傾向がある。

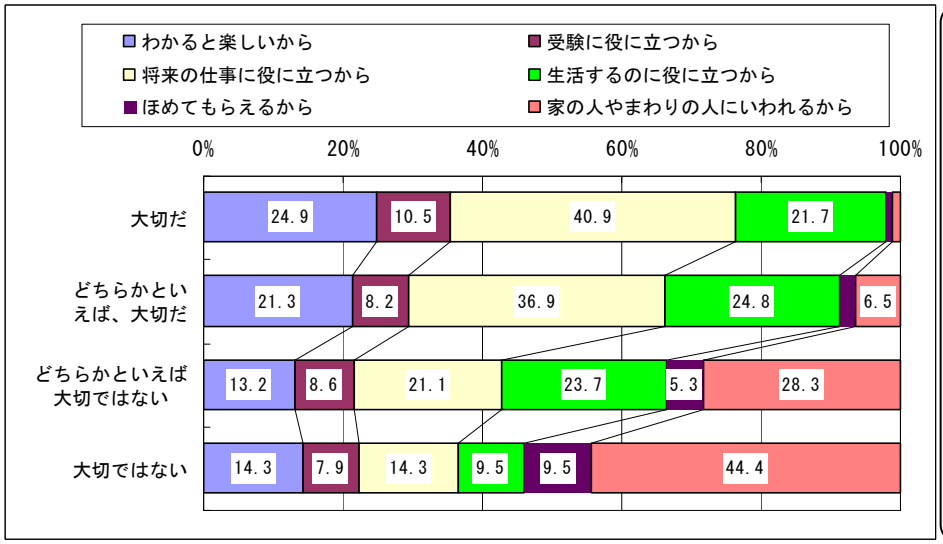
６　学習の必要性【問３】×学校生活の楽しさ【問１】



○学習に対する必要性を感じている児童ほど、学校生活を楽しいと感じている傾向がある。

○勉強が「大切ではない」と回答した児童の 10.9%が「どちらかといえば、楽しくない」、46.9%が「楽しくない」と回答しており、合わせると 57.8%である。

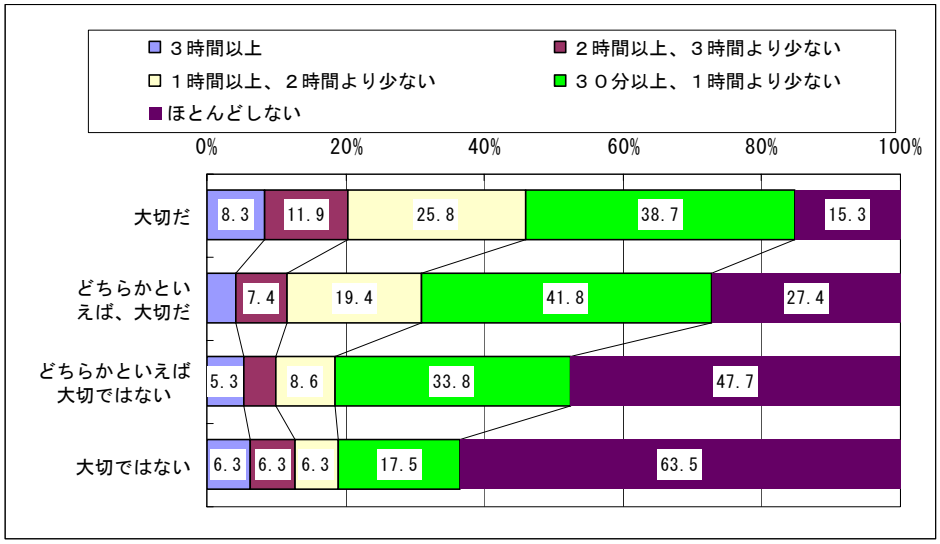
７　学習の必要性【問３】×勉強する理由【問４】



○学習に対する必要性を感じている児童ほど、「将来の仕事に役に立つから」と「生活するのに役に立つから」を勉強の理由に挙げている割合が高い。

○勉強が「大切ではない」と回答した児童では、「家の人やまわりの人にいわれるから」が 44.4%と、４割を超える。

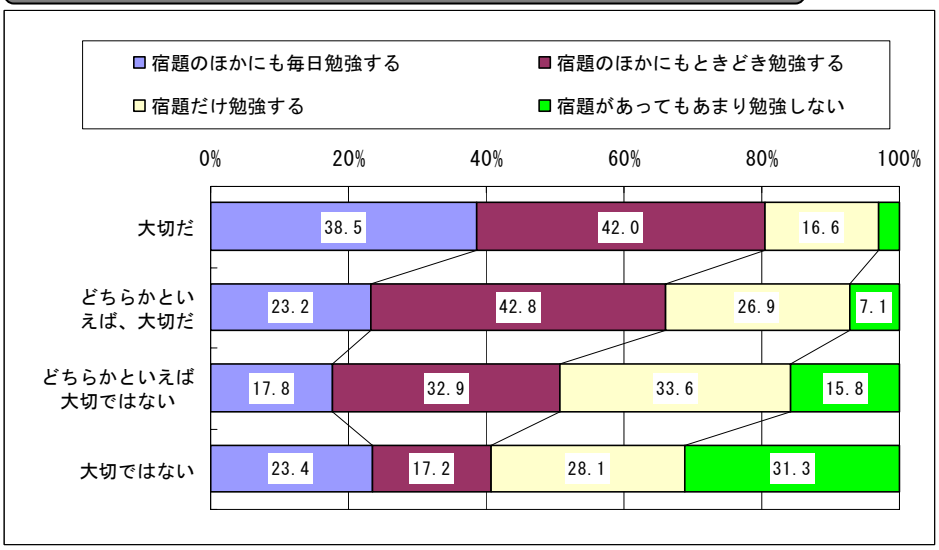
8　学習の必要性【問３】×家庭学習時間（平日）【問 20】



○学習に対する必要性を感じている児童では、平日に家庭学習をしている割合が高い。

○勉強が「どちらかといえば、大切ではない」というる児童の 47.7%、「大切ではない」という児童の 63.6%が、家庭学習を「ほとんどしない」と回答している。

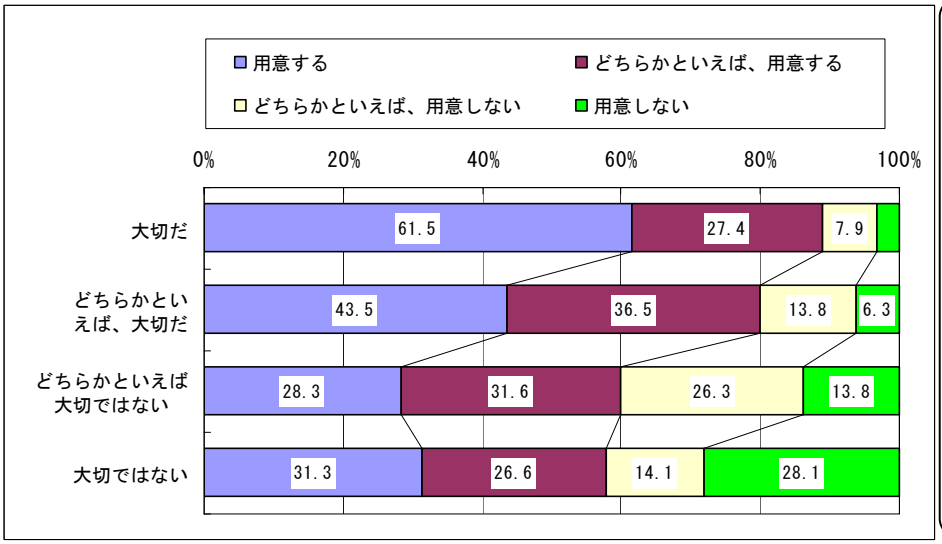
9　学習の必要性【問３】×家庭学習の内容【問 22】



○勉強が「大切だ」と回答した児童では、宿題以外にも勉強をしている割合が高い。

○「大切ではない」と回答した児童でも「宿題のほかにも毎日勉強する」が 23.4%と多い反面、「宿題があってもあまり勉強しない」も 31.3%と、他に比べて多い。

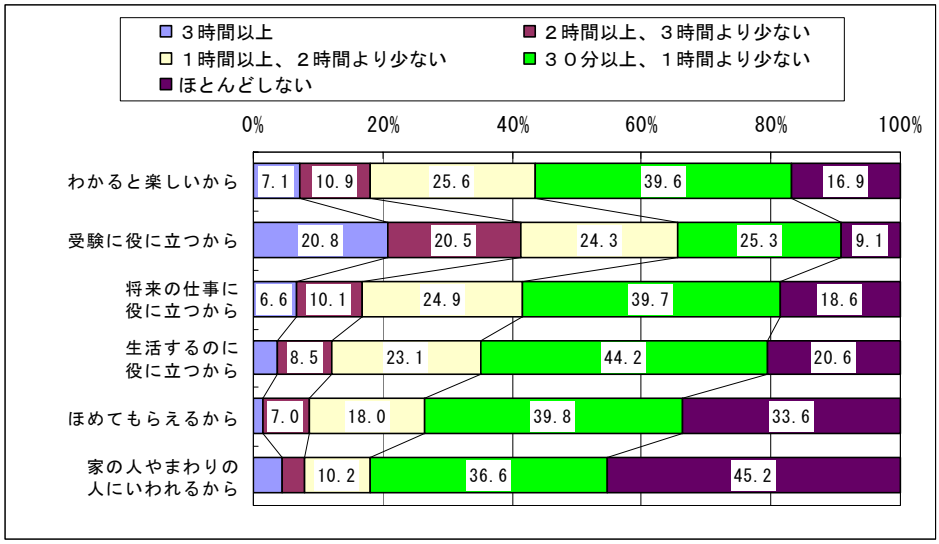
10　学習の必要性【問３】×学習の準備【問 26】



○勉強が「大切だ」と回答した児童では、前日に学校の持ち物を「用意する」と回答した割合は 61.6%である。

○勉強が「どちらかといえば、大切ではない」と回答した児童の 13.8%、「大切ではない」と回答した児童の 28.1%は、「用意しない」と回答している。

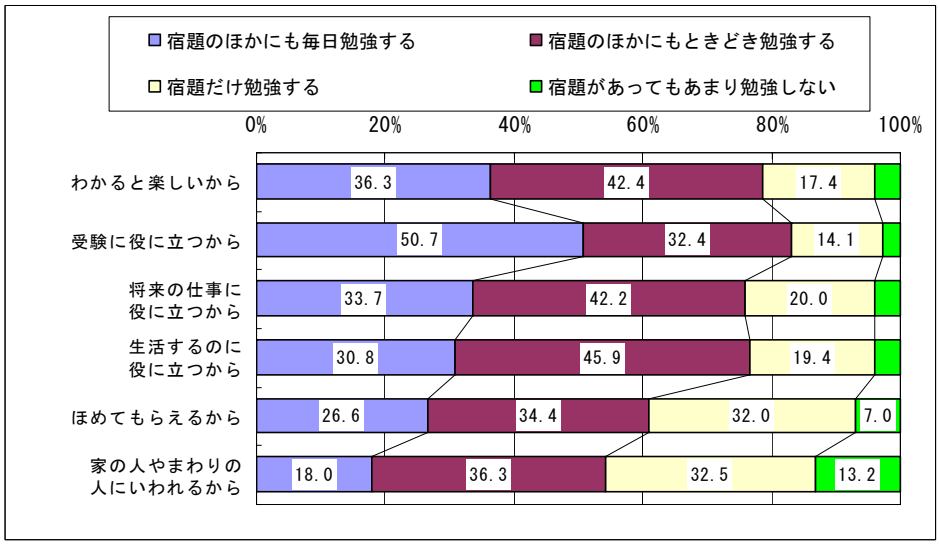
11　勉強する理由【問４】×家庭学習時間（平日）【問 20】



○勉強する理由として「受験に役に立つから」と回答した児童の平日の家庭学習時間が、最も長い傾向がある。

○「家の人やまわりの人にいわれるから」と回答した児童の 45.2%が、家庭学習を「ほとんどしない」と回答している。

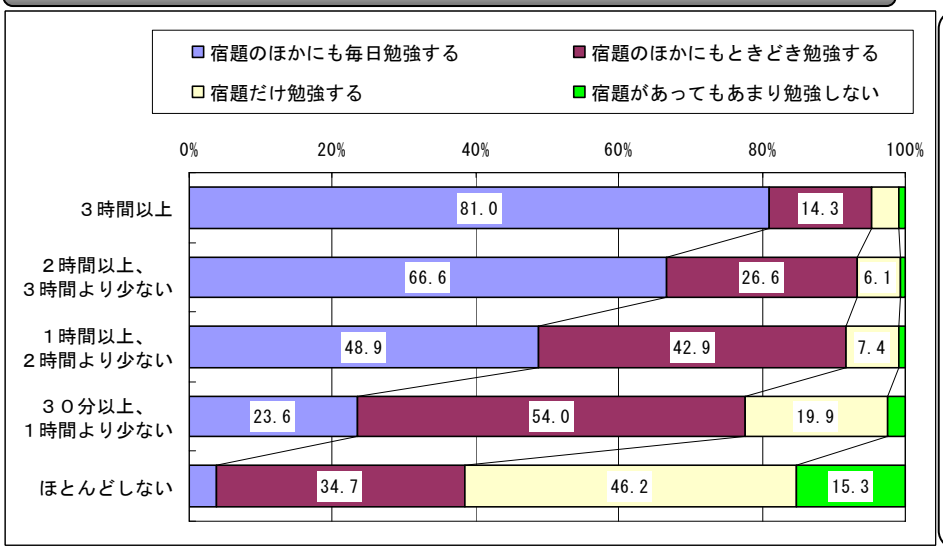
12　勉強する理由【問４】×家庭学習の内容【問 22】



○勉強する理由として「受験に役に立つから」と回答した児童には、他に比べて宿題以外にも家で勉強している傾向がある。

○「家の人やまわりの人にいわれるから」と回答した児童には、他に比べて宿題以外の勉強をしていない児童が多い傾向がある。

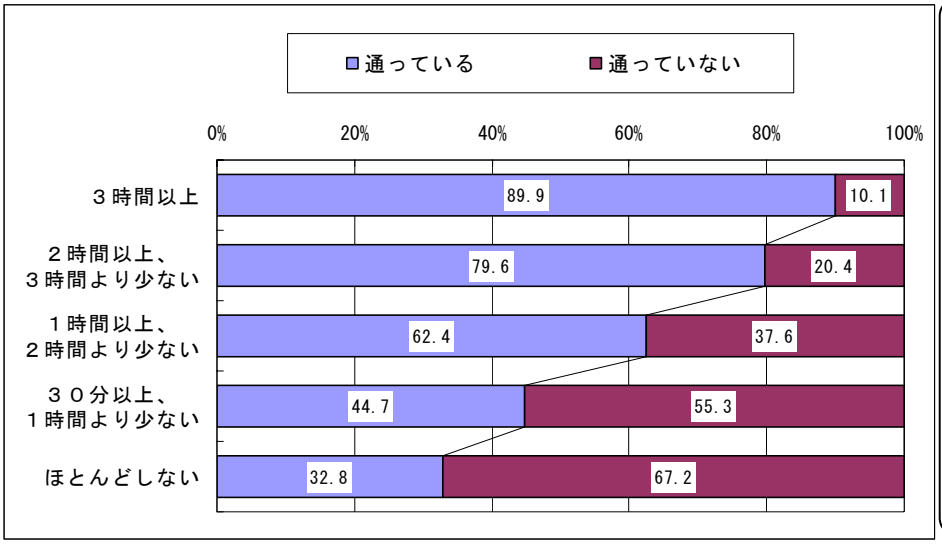
13　家庭学習時間（平日）【問 20】×家庭学習の内容【問 22】



○平日の家庭学習時間が長い児童ほど、宿題のほかにも毎日勉強している傾向がある。

○「ほとんどしない」と回答した児童では、46.2%が「宿題だけ勉強する」、16.3%が「宿題があってもあまり勉強しない」と回答している。

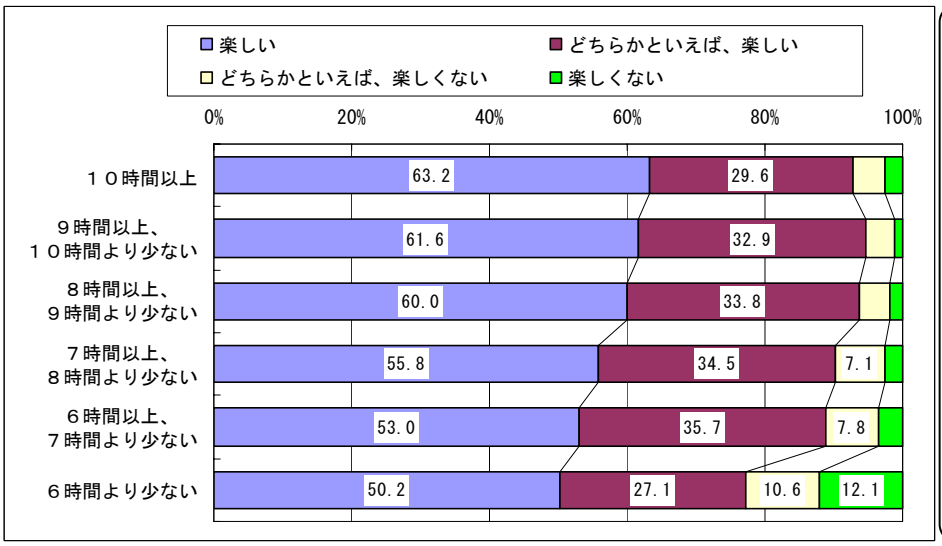
14　家庭学習時間（平日）【問 20】×通塾【問 23】



○平日の家庭学習時間が長い児童ほど、学習塾に通っている傾向がある。

○家庭学習時間が「３時間以上」の児童の通塾率が 89.9%とほぼ９割であるのに対して、「ほとんどしない」児童では 32.9%である。

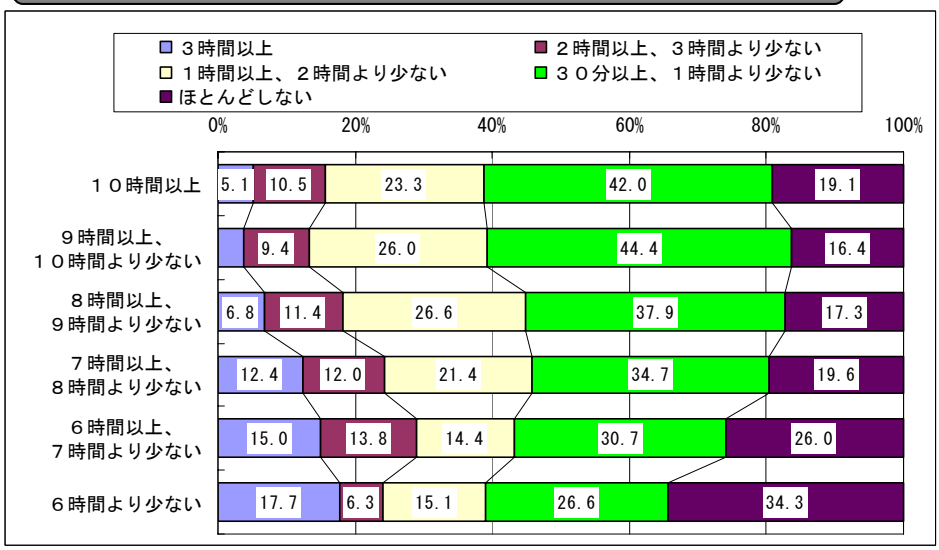
15　睡眠時間【問 24】×学校生活の楽しさ【問１】



○睡眠時間が長い児童ほど、学校生活を楽しいと感じている傾向がある。

○睡眠時間が「６時間より少ない」と回答した児童では、10.6%が「どちらかといえば、楽しくない」13.1%が「楽しくない」と回答しており、合わせると 22.7%である。

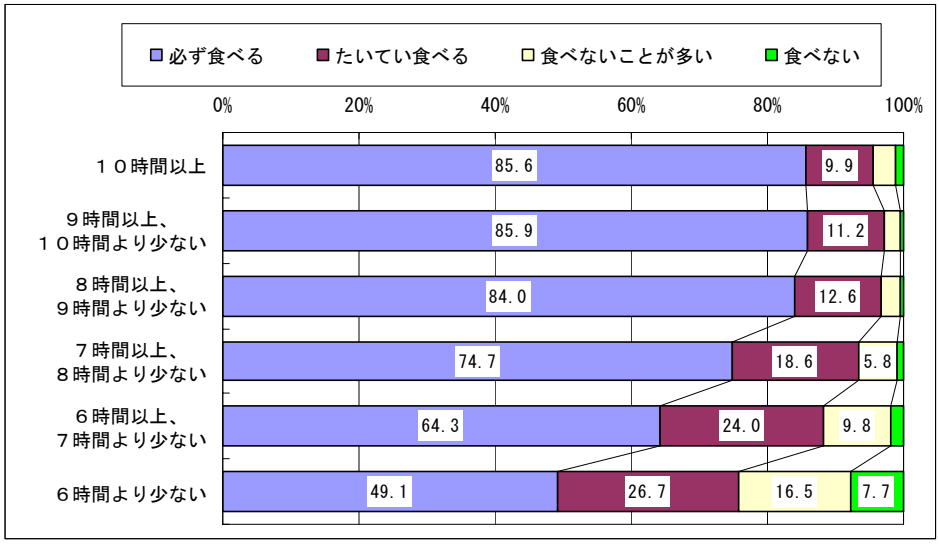
16　睡眠時間【問 24】×家庭学習時間（平日）【問 20】



○「10 時間以上」を除き、睡眠時間が少なくなるにつれて、長時間勉強している児童と、ほとんどしない児童の両方の割合が増加する傾向がある。

○睡眠時間が「６時間より少ない」児童では、「３時間以上」勉強するという回答が 17.7%、「ほとんどしない」が 34.3%である。

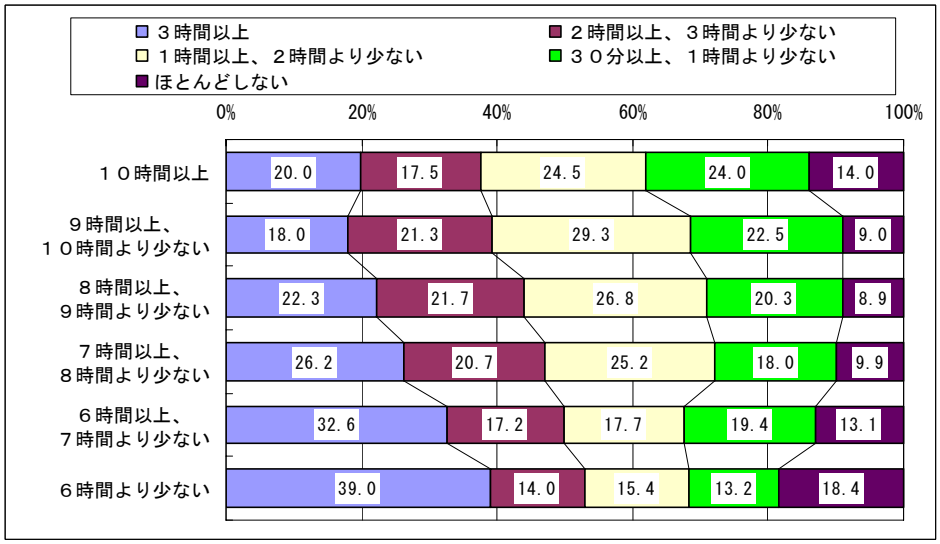
17　睡眠時間【問 24】×朝食の摂取【問 25】



○睡眠時間が長い児童ほど、朝食の摂取状況が良好な傾向がある。

○睡眠時間が「６時間より少ない」児童では、「必ず食べる」という回答は、49.1%と半数以下となる一方、「食べないことが多い」と「食べない」を合わせた割合が、24.2%にまで増加する。

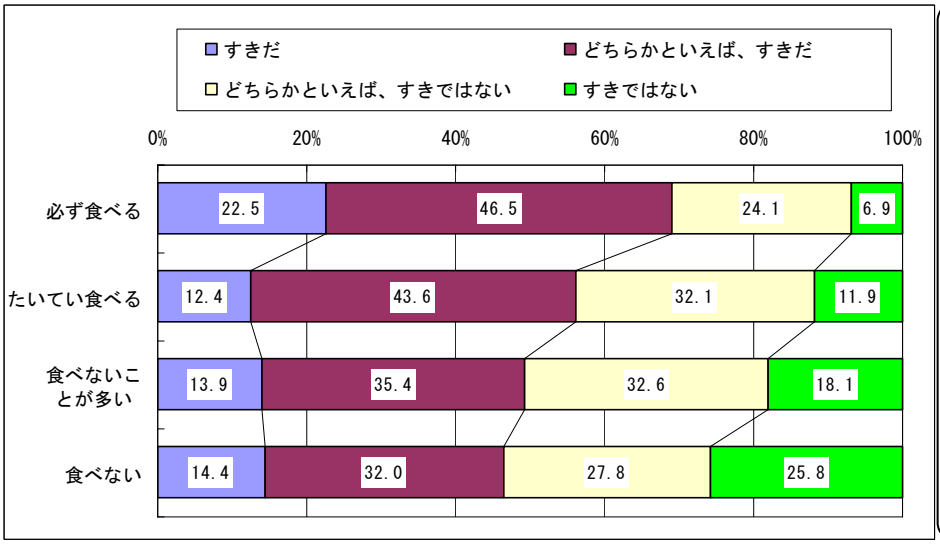
18　睡眠時間【問 24】×テレビ・ビデオ・ゲームの視聴・実施時間【問 27】



○「10 時間以上」を除き、睡眠時間が少なくなるにつれて、長時間テレビの視聴等をしている児童と、ほとんどしない児童の両方の割合が増加する傾向がある。

○「６時間より少ない」児童では、３時間以上テレビの視聴等をしている割合が 39.0%である。

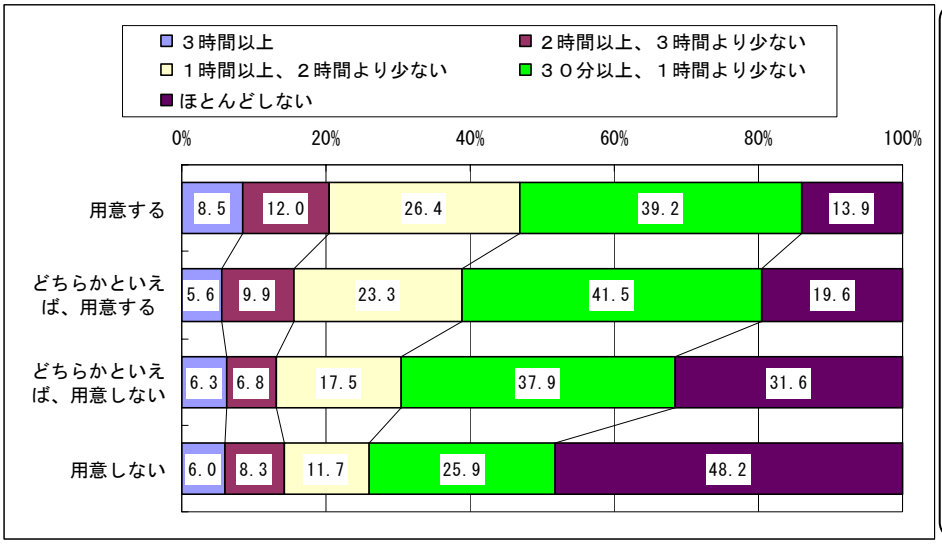
19　朝食の摂取【問 25】×学習に対する好感度【問２】



○朝食を「必ず食べる」と回答した児童では、学習に対する好感度が高く、「どちらかといえば、すきだ」までを合わせると 69.0%と、ほぼ７割である。

○「食べない」と回答した児童では、勉強が「すきではない」という回答割合が 25.8%である。

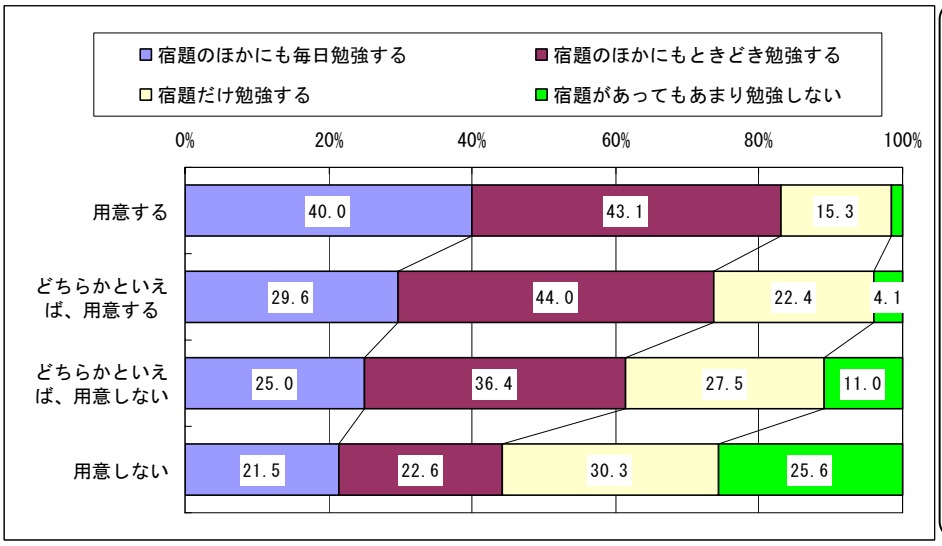
20　学習の準備【問 25】×家庭学習時間（平日）【問 20】



○家庭学習を１時間以上している割合は、前日に学校の持ち物を用意をする児童ほど、高い傾向がある。

○「用意していない」と回答した児童では、48.2%と、ほぼ半数が平日に家庭学習を「ほとんどしない」と回答している。

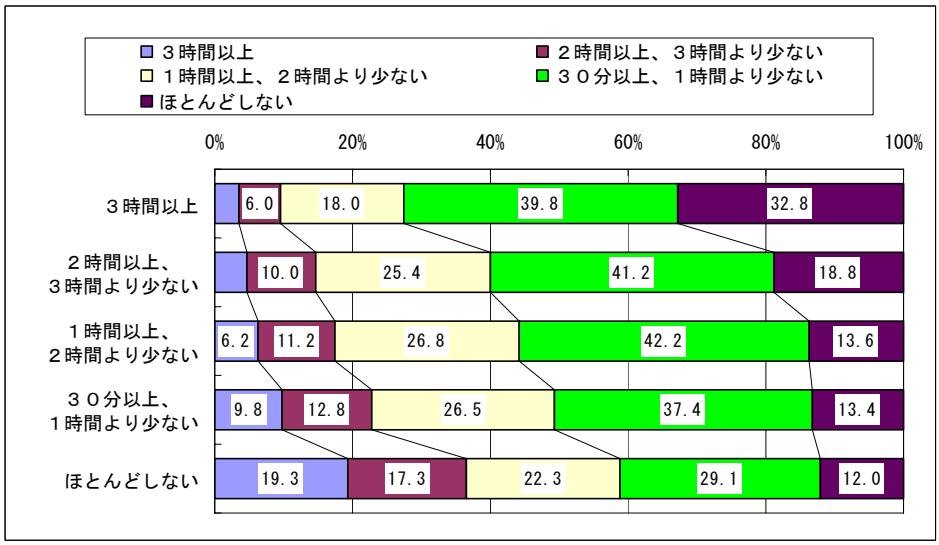
21　学習の準備【問 25】×家庭学習の内容【問 22】



○前日に学校の持ち物を用意する児童ほど、家庭で宿題のほかにも勉強している傾向がある。

○前日に「用意しない」と回答した児童の 25.6%が、「宿題があってもあまり勉強しない」と回答している。

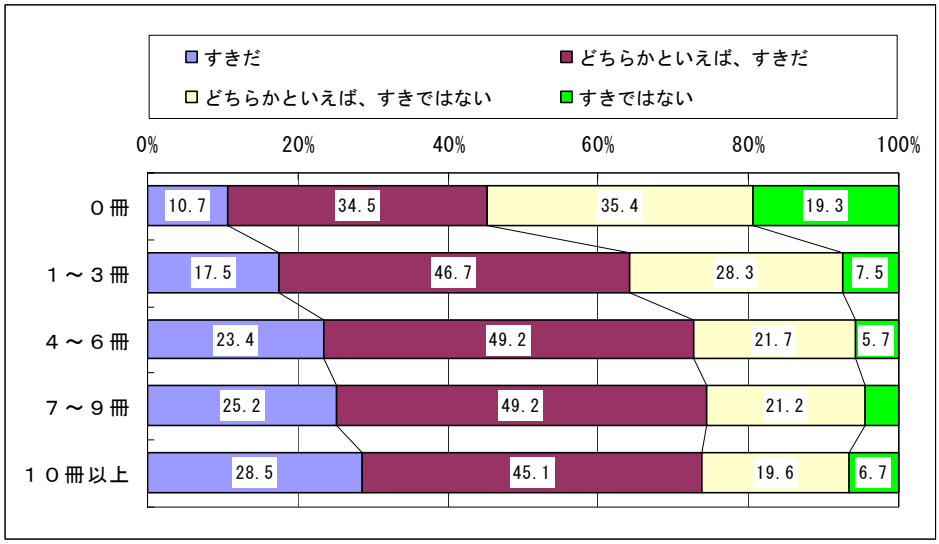
22　テレビ・ビデオ・ゲームの視聴・実施時間【問 27】×家庭学習時間（平日）【問 20】



○テレビの視聴時間等が長い児童ほど、平日の家庭学習時間が短い傾向がある。

○テレビの視聴時間等が「３時間以上」の児童では、３割以上の 32.8%が、家では勉強を「ほとんどしない」と回答している。

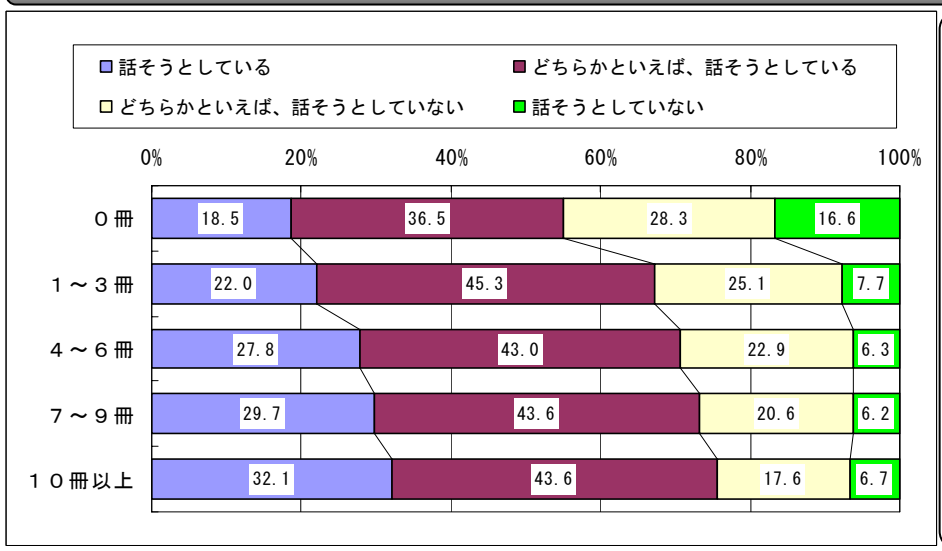
23　１ヶ月の読書量【問 29】×学習に対する好感度【問２】



○読書量が多い児童ほど、学習に対する好感度が高い傾向がある。

○１ヶ月に１冊も本を読まない児童の 36.4%が、勉強が「どちらかといえば、すきではない」、19.3%が「すきではない」と回答しており、合わせると 54.7%である。

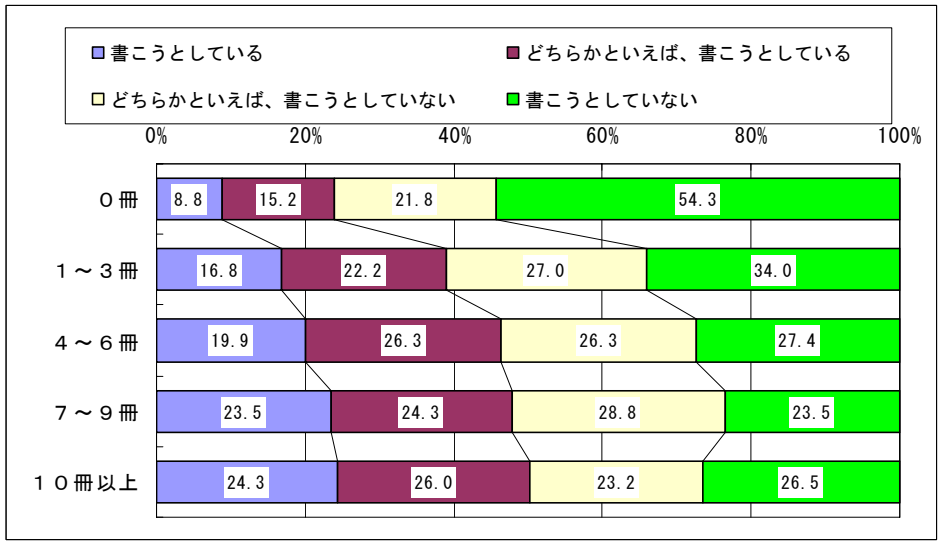
24　１ヶ月の読書量【問 29】×思いや考えを話そうとする意欲【問 31】



○読書量が多い児童ほど、日常生活の中で自分の思いや考えを話そうとしている傾向がある。

○１ヶ月に１冊も本を読まない児童では、「どちらかといえば」までを含めると 44.9%が、自分の思いや考えを「話そうとしていない」と回答している。

25　１ヶ月の読書量【問 29】×思いや考えを書こうとする意欲【問 32】



○読書量が多い児童ほど、自分の思いや考えを文章に書こうとしている傾向がある。

○１ヶ月に１冊も本を読まない児童では、「どちらかといえば」までを含めると 76.1%が、自分の思いや考えを「書こうとしていない」と回答している。

資料　調査結果集計表

（数字はすべて％）

【共通】

問１　学校生活は、楽しいですか。

	楽しい	どちらかといえば、楽しい	どちらかといえば、楽しくない	楽しくない	無回答
H17	57.3	33.6	6.2	2.8	0.1
H18	59.2	32.9	5.2	2.3	0.4

問２　勉強は、すきですか。

	すきだ	どちらかといえば、すきだ	どちらかといえば、すきではない	すきではない	無回答
H17	17.1	43.7	29.1	9.9	0.2
H18	20.6	45.3	25.5	8.3	0.4

問３　勉強をすることは、大切なことだと思いますか。

	大切だ	どちらかといえば、大切だ	どちらかといえば、大切ではない	大切ではない	無回答
H17	71.7	25.9	1.6	0.6	0.2
H18	75.4	22.1	1.5	0.6	0.5

問４　勉強をする一番の理由はなんですか。

	わかると楽しいから	受験に役に立つから	将来の仕事に役に立つから	生活するのに役に立つから	ほめてもらえるから	家の人やまわりの人にいわれるから	無回答
H17	24.9	9.2	39.0	21.6	1.3	3.6	0.3
H18	23.7	9.9	39.3	22.2	1.2	3.0	0.7

問５～９　次の学習はすきですか。

		すきだ	どちらかといえば、すきだ	どちらかといえば、すきではない	すきではない	無回答
国語	H17	27.4	40.5	23.3	8.2	0.6
	H18	30.3	38.9	21.3	8.3	1.2
社会	H17	26.7	34.2	26.2	12.3	0.6
	H18	27.3	36.5	23.9	11.0	1.3
算数	H17	38.6	30.7	18.9	11.0	0.8
	H18	41.4	29.4	16.7	11.1	1.5
理科	H17	42.3	36.5	14.5	5.9	0.8
	H18	53.2	30.8	10.3	4.1	1.6
総合	H17	43.6	38.5	12.4	4.5	1.0
	H18	43.5	38.6	11.5	4.5	2.0

問 10～13　次の授業は、よくわかりますか。

		わかる	どちらかといえば、わかる	どちらかといえば、わからない	わからない	無回答
国語	H17	52.8	37.4	7.4	2.0	0.4
	H18	53.2	36.7	7.4	1.8	1.0
社会	H17	44.1	39.5	12.8	3.0	0.5
	H18	45.3	39.3	11.3	2.8	1.2
算数	H17	52.7	31.7	11.3	3.8	0.5
	H18	55.8	28.8	10.5	3.8	1.2
理科	H17	54.3	36.0	7.6	1.7	0.4
	H18	62.2	29.8	5.6	1.4	1.0

問 14～18　授業で学んだことは、生活の中で役に立っていると思いますか。

		役に立つ	どちらかといえば、役に立つ	どちらかといえば、役に立たない	役に立たない	無回答
国語	H17	58.6	31.6	7.2	2.1	0.5
	H18	65.1	26.7	5.5	1.8	1.0
社会	H17	45.3	38.2	12.6	3.4	0.5
	H18	54.0	34.1	8.2	2.5	1.2
算数	H17	73.3	21.1	3.6	1.3	0.7
	H18	77.0	17.5	3.0	1.2	1.3
理科	H17	35.5	43.1	16.6	4.1	0.8
	H18	43.8	39.3	12.3	3.2	1.4
総合	H17	40.9	39.1	13.5	5.0	1.6
	H18	45.3	37.4	10.6	4.0	2.8

問 19　授業の中で、わからないことがあったら、どうすることが多いですか。（複数回答可）

	その場で先生にたずねる	授業が終わってから先生にたずねる	友だちにたずねる	家の人にたずねる	じゅくや家庭教師の先生にたずねる	自分で調べる	そのままにしておく
H17	41.7	25.3	70.1	69.9	17.3	48.6	27.2
H18	47.5	26.7	64.4	70.5	15.9	50.9	23.2

問 20　学校のある日、家で１日どのくらい勉強しますか。

	３時間以上	２時間以上、３時間より少ない	１時間以上、２時間より少ない	３０分以上、１時間より少ない	ほとんどしない	無回答
H17	7.8	11.4	24.5	36.7	19.1	0.6
H18	7.3	10.6	23.7	38.7	18.5	1.2

問 21　学校が休みの日、家で１日どのくらい勉強しますか。

	３時間以上	２時間以上、３時間より少ない	１時間以上、２時間より少ない	３０分以上、１時間より少ない	ほとんどしない	無回答
H17	11.8	10.9	19.8	29.6	27.4	0.5
H18	9.7	10.5	19.8	31.4	27.4	1.2

問 22　ふだん、家でしている勉強は、どれに近いですか。

	宿題のほかにも毎日勉強する	宿題のほかにもときどき勉強する	宿題だけ勉強する	宿題があってもあまり勉強しない	無回答
H17	30.8	43.4	18.8	6.4	0.5
H18	34.3	41.4	18.9	4.2	1.2

問 23　学習じゅくに、通っていますか。

	通っている	通っていない	無回答
H17	52.3	47.1	0.7
H18	52.9	45.5	1.6

問 24　学校がある日の、睡眠時間はどれぐらいですか。

	１０時間以上	９時間以上、１０時間より少ない	８時間以上、９時間より少ない	７時間以上、８時間より少ない	６時間以上、７時間より少ない	６時間より少ない	無回答
H17	9.2	26.3	33.2	19.7	8.3	2.8	0.6
H18	11.8	31.3	30.5	16.1	6.4	2.6	1.3

問 25　毎日、朝食を食べますか。

	必ず食べる	たいてい食べる	食べないことが多い	食べない	無回答
H17	77.3	15.9	5.1	1.5	0.1
H18	80.5	14.0	4.1	0.9	0.5

問 26　学校に持って行くものは、前日にきちんと用意しますか。

	用意する	どちらかといえば、用意する	どちらかといえば、用意しない	用意しない	無回答
H17	48.8	30.7	13.1	7.3	0.2
H18	56.5	29.2	9.5	4.2	0.6

問 27　学校のある日、家でどのくらいテレビやビデオをみたり、テレビゲームをしますか。

	３時間以上	２時間以上、３時間より少ない	１時間以上、２時間より少ない	３０分以上、１時間より少ない	ほとんどしない	無回答
H17	26.6	22.9	24.6	17.1	8.4	0.4
H18	22.3	20.3	25.9	20.6	10.1	0.8

問 28　学校が休みの日、家でどのくらいテレビやビデオをみたり、テレビゲームをしますか。

	３時間以上	２時間以上、３時間より少ない	１時間以上、２時間より少ない	３０分以上、１時間より少ない	ほとんどしない	無回答
H17	36.7	22.7	21.2	12.0	7.0	0.4
H18	31.0	21.1	23.3	15.2	8.4	0.9

問 29　月に何さつぐらい本（マンガ・雑誌をのぞく）を読みますか。　［＊31 冊以上の回答は集計から除外］

	０冊	１～３冊	４～６冊	７～９冊	１０冊以上	無回答	平均冊数 ＊無回答を除く
H17	17.8	46.7	16.2	5.2	13.2	0.9	4.0
H18	12.3	41.5	18.0	6.6	20.7	0.9	5.3

【国語】

問 30　わからない言葉があるときは国語辞典（電子辞書をふくみます）を使いますか。

	よく使う	どちらかといえば、よく使う	どちらかといえば、あまり使わない	あまり使わない	無回答
H17	25.4	33.0	24.9	16.6	0.1
H18	24.8	32.6	25.1	17.0	0.5

問 31　日常生活の中で、自分の思いや考えを積極的に話そうとしていますか。

	話そうとしている	どちらかといえば、話そうとしている	どちらかといえば、話そうとしていない	話そうとしていない	無回答
H17	24.2	40.5	26.1	9.0	0.2
H18	25.2	43.0	23.0	8.2	0.6

問 32　日記を書くなど、自分の思いや考えを文章に書こうとしていますか。

	書こうとしている	どちらかといえば、書こうとしている	どちらかといえば、書こうとしていない	書こうとしていない	無回答
H17	16.4	19.8	24.9	38.7	0.2
H18	18.4	22.9	25.4	32.8	0.6

【社会】

問 33　わからない地名に出会ったら、自分で地図帳などを使って調べますか。

	調べようとしている	どちらかといえば、調べようとしている	どちらかといえば、調べようとしていない	調べようとしていない	無回答
H17	23.1	30.1	27.1	19.5	0.2
H18	30.3	32.6	22.7	13.8	0.5

問 34　歴史上の人物やできごとをあつかっている本を読むことはすきですか。

	すきだ	どちらかといえば、すきだ	どちらかといえば、すきではない	すきではない	無回答
H17	31.4	23.5	23.6	21.4	0.2
H18	30.8	24.5	24.1	20.0	0.6

問 35　社会のできごとやニュースに関心がありますか。

	関心がある	どちらかといえば、関心がある	どちらかといえば、関心がない	関心がない	無回答
H17	35.5	41.7	15.9	6.7	0.2
H18	32.3	41.2	17.9	8.1	0.6

【算数】

問 36　算数の時間に、いろいろな考え方を発表しあうことはすきですか。

	すきだ	どちらかといえば、すきだ	どちらかといえば、すきではない	すきではない	無回答
H17	22.7	28.8	32.4	15.9	0.2
H18	26.2	29.6	29.0	14.5	0.7

問 37　問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか。

	考えようとしている	どちらかといえば、考えようとしている	どちらかといえば、考えようとしていな	考えようとしていない	無回答
H17	22.5	33.2	28.4	15.6	0.2
H18	24.2	32.8	27.9	14.4	0.7

問 38　問題が解けなかったとき、なぜ解けなかったかをふり返って考えようとしていますか。

	考えようとしている	どちらかといえば、考えようとしている	どちらかといえば、考えようとしていな	考えようとしていない	無回答
H17	28.1	37.2	22.0	12.4	0.2
H18	29.3	37.3	21.5	11.3	0.7

【理科】

問 39　理科の勉強で、実験や観察をすることはすきですか。

	すきだ	どちらかといえば、すきだ	どちらかといえば、すきではない	すきではない	無回答
H17	63.6	24.7	7.6	3.9	0.2
H18	70.3	20.3	5.8	3.0	0.7

問 40　理科の勉強で、わからないことや興味・関心をもったことについて自分から調べようとしていますか。

	調べようとしている	どちらかといえば、調べようとしている	どちらかといえば、調べようとしていない	調べようとしていない	無回答
H17	18.9	36.0	32.3	12.6	0.2
H18	26.3	37.5	26.1	9.4	0.7

問 41　自然や理科についての読み物や図かん、テレビ番組などをよくみていますか。

	よくみている	どちらかといえば、よくみている	どちらかといえば、あまりみていない	あまりみていない	無回答
H17	25.2	26.9	28.1	19.6	0.3
H18	29.4	27.4	26.2	16.3	0.7

【総合的な学習】

問 42　自分の興味や疑問をもったことを自分のやり方で学習できていると思いますか。

	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	思わない	無回答
H17	19.5	45.4	25.8	9.0	0.3
H18	20.2	45.2	25.4	8.3	0.9

問 43　情報の集め方や調べ方がわかるようになったと思いますか。

	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	思わない	無回答
H17	33.3	42.4	17.3	6.8	0.3
H18	30.7	42.8	19.2	6.4	0.8

問 44　自分が興味をもったことをもっと調べてみたいと思うことがありますか。

	思うことがある	どちらかといえば、思うことがある	どちらかといえば、思うことはない	思うことはない	無回答
H17	41.2	33.2	17.3	8.1	0.3
H18	45.4	30.6	16.4	6.9	0.8